

HANDI QUILTER 18-INCH STATIONARY LONGARM

Designed by a Quilter, for Quilters.®

HQ *Capri* 18™

USER MANUAL

VERSION 1.0



 **Handi Quilter®**
Designed by a Quilter, for Quilters.®

HQ Capri 18™

USER MANUAL

VERSION 1.0



2010 Handi Quilter, Inc. All Rights Reserved

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。当説明書の内容に関して何か問題が見つかった場合は書面で私たちにそれらを報告してください。このドキュメントは、エラーのないものという保証はありません。ハンディキルター社は、記載されている可能性のある誤りや不正確さに対して一切の責任または責任を負いません。

本書に記載されている情報コンテンツ。

Handi Quilter®, HQ Capri™, HQ InSight Table™, HQ InSight Stitch Regulation™, Handi Feet™, and Easy-Set Tension™ are all trademarks or registered trademarks of Handi Quilter, Inc. Digital tensioner U.S. Patent No. 8,997,669. InSight Stitch Regulation U.S. Patent Nos. 9,840,797, 10,100,449, and 10,240,270

米国の商標または登録商標です。

特許第 8,997,669 号インサイトステッチ規制米国特許第 9,840,797 号

アメリカ合衆国で印刷。

バージョン 1.0 11/2019

www.HandiQuilter.com



Handi Quilter, Inc.
501 N 400 W
North Salt Lake, UT 84054

1-877-MY-QUILT (697-8458) • www.HandiQuilter.com

HQ Capri™ is part of the family of innovative quilting products from Handi Quilter®



PRINTED 11/2019

© 2019 Handi Quilter, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S.A.

このマニュアルの使い方

記号の説明

-  **メモ：** ハンディキルター社製品をご使用する際、より良い利用方法を得るのに役立つ重要な情報を示します
-  **重要：** ハンディキルター社製品を正しくご使用いただくために不可欠な情報を提供します
-  **注意：** キルティングマシン、キルト、またはご使用者の安全に害が被る可能性を示します
-  **オンライン：** オンラインで動画などの詳細情報が得られることを示します
-  **キルティングのヒント：** キルティング作業がスムーズに進むようなヒントをご用意しています

情報の検索方法

何をお探ですか？

以下の情報をご覧ください

製品保証情報	使用説明書
安全に関する情報	使用説明書
規制情報	使用説明書
あなたのマシンの付属品	使用説明書
機械仕様	使用説明書
HQ InSight テーブルの組立情報	HQ インサイトテーブル組立説明書
マシンのセットアップ情報	使用説明書
糸の掛け方	クイックリファレンスガイド
針に関する情報	クイックリファレンスガイド
キルティングを始めるには	USB スティック
オンラインビデオ	www.youtube.com/user/HondiQuilterHQ
基本的なメンテナンス方法	使用説明書
トラブルシューティング	使用説明書
ヒントとトリック	www.HondiQuilter.com/Live/ https://www.youtube.com/user/HandiQuilterHQ/videos
トレーニングと教育	www.HandiQuilter.com
カスタマーケア/テクニカルサポート	キルトガーデン

090-2332-5770 月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 5 時まで、info@quiltgarden.jp

コミュニティ： フォーラム: <https://support.HondiQuilter.me/hc/en-us/community/topics>

ブログ: <https://HondiQuilter.com/blog/> 英文

フェイスブック: www.facebook.com/HondiQuilter 英文

目次

ご購入おめでとうございます！	4
ミシンの付属品	4
安全にお使いいただくための重要事項	5
安全にご利用いただくために	8
ミシンを大切に長くご使用いただくために	8
故障かなと思ったら	8
あなたのミシンについて	9
仕様説明	9
HQ カプリの各部名称	10
インストールとセットアップ	13
テーブルの組立	13
ミシンをテーブルにセットする	13
電源コードを接続する	14
上糸案内棒を取り付ける	14
タッチスクリーンを取り付ける	15
ミシンを使ってみる	16
針と糸の選び方	16
押え金の着脱方法	16
ミシンに上糸を掛ける	17
針の交換方法	19
ボビンケースと下糸テンションの調節方法	20
ボビンの着脱方法	20
下糸を引き上げるには	21
下糸テンションのチェックと調節方法	21
下糸テンションを強く/弱くするには	21
上糸テンションの調節方法	22
上糸テンションを強くする	22
上糸テンションを弱くする	22
メンテナンスの方法	23
ミシンのクリーニングと注油の方法	23
タッチスクリーンを使ってみる	24
マニュアルモード機能	24
休止/スタートボタン	24
マイスピード	24
最高スピード	24

プリセットスピード	25
マニュアルモードのしつけ縫い	25
上糸テンションを調節する	25
下糸残量表示	26
針の停止位置を選ぶ	26
針を上げる/下げる/留め縫いする	27
ステッチレギュレーターモード機能	27
ステッチの長さをセットする	27
しつけ縫い	27
プリシジョン(正確)モード	28
クルーズ(巡航)モード	28
ツールメニュー	29
下糸残量警告	30
タイマー機能	31
アラーム機能	31
ソーイングライト	32
電卓機能	32
診断メッセージ	33
モーターセンサーテスト	33
スピードセンサーテスト	33
モーションセンサーテスト	34
ニードルセンサーテスト	34
ダイヤルテンションのリセット方法	35
フットペダルテスト	35
言語選択	36
ファームウェアのアップデート	36
システム情報画面	37
キルティングを縫う	38
糸に関して	38
針に関して	38
キルティングのための準備	38
困ったときは	39
オプションアクセサリ	44
ハンディキルター製品保証登録証	48
トレーニング チェックリストと認定証	50

ご購入おめでとうございます

キルティングミシンをご購入していただき、同時にハンディキルターファミリーにご参加いただけ大変光栄に存じます。ハンディキルターは今日、世界で最も数多く使われているキルティングミシンです。

ハンディキルター社は、革新的で、信頼性あるカスタマーフレンドリーな製品、そして豊富なカスタマーエデュケーションをご提供できるよう常に取り組んでいます。ハンディキルター製品は、キルターのために、キルターによって設計され、ユーザーのキルティングをより使いやすいものにすべく常に改善を重ねております。当社のウェブサイトブックマークしていただくために www.HandiQuilter.com にご招待します。

ご訪問いただければ、より多くのことを学んでいただけることと思います。何かご質問があれば、ハンディキルター正規輸入販売代理店がいつでもあなたをサポートします。



重要：梱包材料は出来る限り保管してください。ミシンを定期点検や修理に出すときに必要になります。

ミシンの付属品

- ボビン (5 個)
- ボビンケース
- 針(134 工業用)サイズ 100/16(10 本入り)
- 針(134 工業用)サイズ 110/18(10 本入り)
- 糸ガイドマスト
- ペン型オイル
- 電源コード
- 小型ドライバー
- スパナレンチ
- 2.5 mm L 型六角レンチ
- 3 mm L 型六角レンチ
- 4 mm L 型六角レンチ
- オープントー型フリーモーション押え
- クイック リファレンス カード
- HQ 下糸巻機
- フットペダル
- HQ カブリキルティングミシン



重要！：安全にご使用いただくために

お使いになる前に必ず全ての説明をお読みください。このミシンをお使いになるときは、以下に記述されている内容も含めて、基本的な安全予防策に準じてご使ってください。

安全にお使いいただくために

ご使用前に必ず全ての説明を読みご理解ください。

このミシンをお使いになる際には以下の基本注意事項を守ってください。

危険：感電事故を避けるには

- ミシンをご使用にならないときや、クリーニングやメンテナンスをされるときは必ずミシンの電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

警告：火傷、火事、感電、怪我などを避けるために

- HQ カブリは大変重いミシンです。テーブルから取り外して移動するときは必ず二人で持ち上げるようにしてください。
- 使用説明書に従って、ミシンのメンテナンスや針の交換、注油、調節をするときは、必ずミシンの電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグを抜くときはコードを引っ張らず、プラグをつかんで引き抜いてください。
- 動く部品に指を近づけないでください。ミシンの針の周りでは特に気をつけてください。
- 針は頻繁に交換しましょう。ハンディキルター社純正の針をご使用ください。間違った針は針折れを発生させます。曲がった針は絶対に使わないでください。
- 針の周りで作業をするとき、針の交換、釜に注油、針に糸を通すとき、押えの交換、ボビンケースの出し入れの際、などは必ずミシンの電源スイッチをオフにしてください。
- ミシンの開口部に異物を落とさない、また差し込んだりしないでください。
- カブリは屋外では使わないでください。また湿気の多い場所でのご使用は控えてください。
- カブリは高温多湿の場所に保管しないでください。
- 使用説明書に示された以外の使い方は絶対にしないでください。
- 電源コードやプラグに傷が付いているとき、作動が正常でないとき、落としたり、ダメージを受けた時、水に浸かったりしたときなど、このような場合はミシンを使わないで直ちに正規販売代理店に、検査、修理、調整を依頼してください。
- ハンディキルター社が認定するテーブルやキルティングフレーム以外の装置では使用しないでください。
- ハンディキルター社純正以外のアクセサリやアタッチメントを使わないでください。
- 通気穴をふさいだ状態でミシンを使わないでください。糸くずやごみ、布地で通気孔がふさがれている様な状態は危険です。必ず掃除してください。
- エアスプレーが使われている付近でのご使用は絶対に避けてください。

- ミシン使用中は布を急に押したり引いたりしないでください。針が曲がり、折れる場合があります。
- ハンディキルター社が推奨する針以外は使わないでください。間違った針を使うと、針が折れ、釜に傷を付けたりする結果を招きます。
- 小さなお子様がこのミシンで遊んだりしないよう気をつけてください。周りにお子様がいる状況でこのミシンを使う際は十分に安全を確認してください。
- 以下の方がこのミシンをお使いになるときは、ご使用上の注意事項を理解した熟練の指導者が必要です。
 - ◇ 8歳以上のお子様
 - ◇ 身体の不自由な方
 - ◇ 未経験な方
 - ◇ ご高齢の方
 - ◇ 精神的疾患のある方
- ご指導できる方がいない状況でお子様がミシンを触ることは危険です。安全を保障できません。

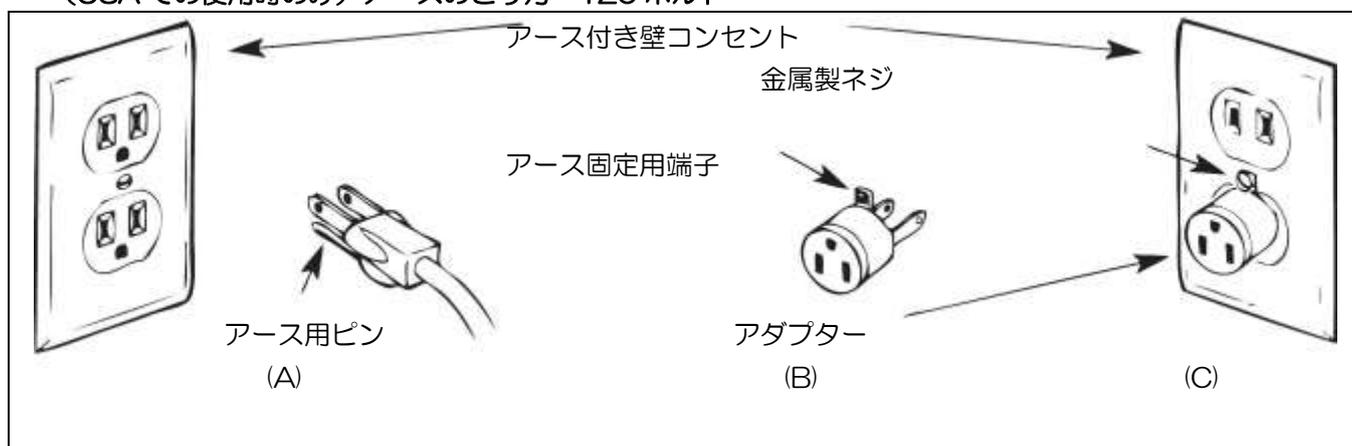
この説明書を大切に保管してください。

このミシンはご家庭でご使用いただくように設計されています。

免責事項確認

ハンディキルター社およびその製品の販売に関与するいかなる組織と人物は、ハンディキルター社製品を不当に扱ったり、この説明書に従わない使い方をしたり、ハンディキルター社が推奨しないキルトフレームを使って発生するいかなるダメージや法的な債務への責任を負うものでないことを宣言します。

(USA での使用時のみ) アースのとり方 120 ボルト



このミシンには図の (A) に示された 100-240 ボルト対応のアース用ピンがついたプラグが採用されています。ご家庭の壁に埋め込まれたコンセントに接続される場合には、このアース接続用のピン穴のついたコンセントをお使いいただくか、電気店で普通のコンセントに接続できる (B) のようなアダプターをご購入して接続してください。アース端子は必ず適切にアース装備が付いたコンセントに接続してください。ご不明な点は正規販売店にご相談ください。

🔴 重要：カナダではアダプターのご利用は法律で禁止されています。

安全にご利用いただくために：

- ① ソーイング中は針の動きに十分ご注意ください。ソーイング中は弾み車や天秤、針など動く部品には絶対に触れないでください。
- ② 次のような場合はミシンの電源コードをコンセントから抜いてください。
 - ミシンを使わないとき。
 - 針やそのほかの部品を交換するとき。
 - 使用中に間違った操作をしたとき。
 - ミシンを点検、掃除するとき。
 - ミシンから離れるとき。
- ③ 延長コードなどはできるだけ使わず、直接壁の電源コンセントに接続してください。

ミシンを大切に長くご利用いただくために：

1. 直射日光の当たる場所や湿気の多い場所で長期に保管しないでください。電熱器、アイロン、ハロゲンライト、その他熱を発生する物の傍では使わないでください。
2. ミシンをクリーニングするときは、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に浸して拭いてください。ベンジンや溶剤、磨き粉のようなものは塗装面を著しく損傷しますので絶対に使わないでください。
3. 落としたり、ぶつけたりしないでください。
4. 押えや針、その他の部品の交換は使用説明書に従って行ってください。

故障かなと思ったら

もしミシンが故障し調整が必要と思われる場合は、先ずこの使用説明書の 39 ページの「困ったときは」を参照してご自分でできることを試してみてください。

更に詳しい情報が必要な場合はお買い求め店にご連絡ください。

この説明書の内容は事前の通達なく変更、改訂されることがあります。最新の説明書をご覧になるには、www.HandiQuilter.com/manuals/ を検索してください。

あなたのミシンについて:

仕様説明:

HQ カブリ 18 はハイテク電子技術を応用した革新的な液晶タッチスクリーンをキルティング業界でいち早くユーザーインターフェースとして利用し、ご家庭での機能的な使い易さを可能にしました。HQ カブリ 18 は耐久性に優れ、かつお手入れし易い高品質のキルティング専用ミシンです。

開口部寸法:	8.25" × 18 " (210mm x 457mm)
速度:	最高 2200 針/分
針仕様:	134(135x7)DPx5 針サイズ: 12/80~20/125
釜システム:	垂直全回転釜、M-クラスボビンケース
ボビン:	アルミ製、M-クラスサイズ
ボビンケース:	MF タイプ
モーター:	直流制御(ブラシレス)
針上下:	アップ/ダウン、留め縫い
電圧:	100-250V ユニバーサルボルテージ対応、50/60Hz、最大 300W この製品は U/L、日本、及び国際安全基準に準じるものであり、USA 及び国際法にの った家庭電化製品であることを証明します。
標準使用電力:	120 ワット
ホッピング押えストローク:	5mm
針棒ストローク:	35.3mm
天秤ストローク:	73mm
注油:	Kluber ミシン油、恒久タイプ
釜オイル:	Velocite10、Texaco22

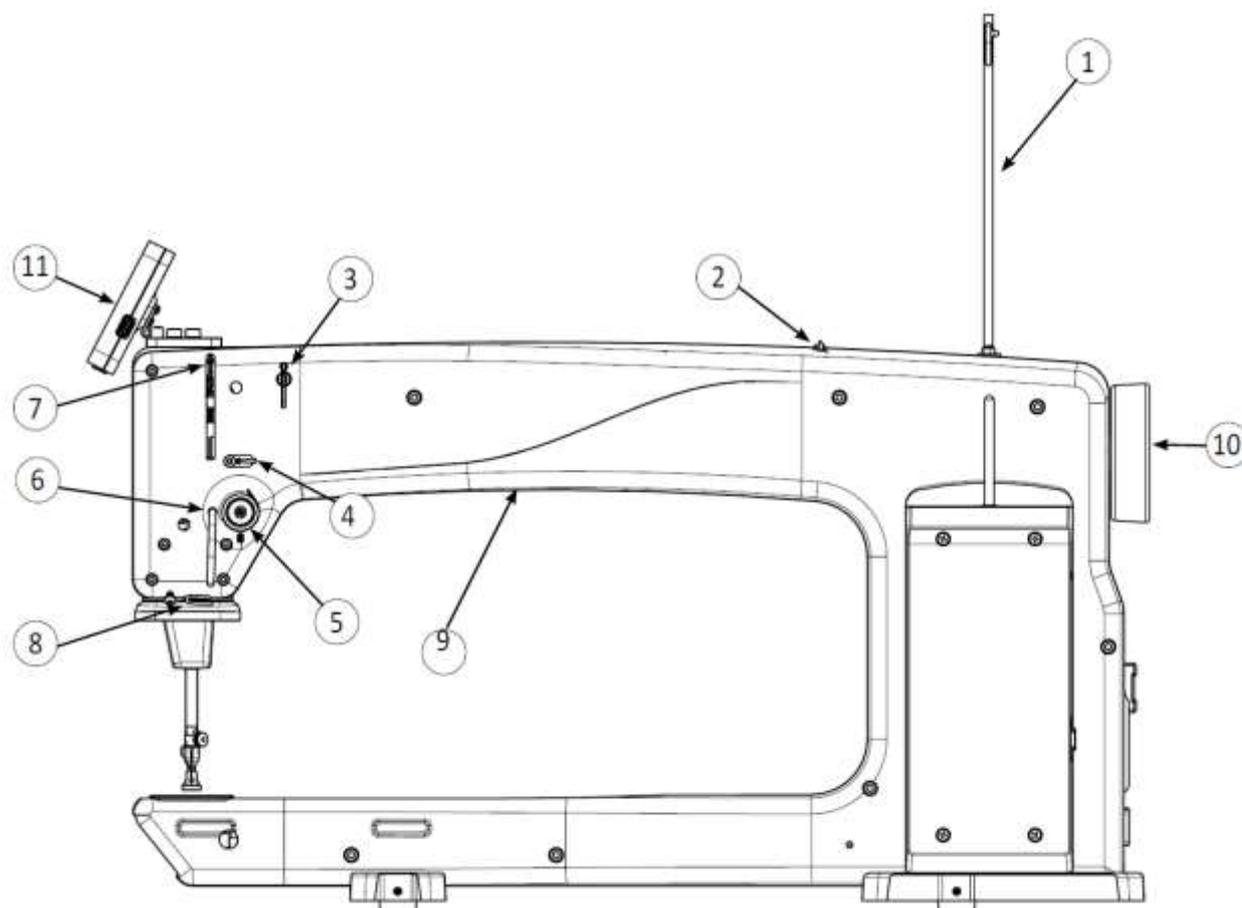
免責事項:

ハンディキルター社とその小売業者は、この使用説明書に記載されている内容に従わずに HQ カブリ 18 が不適切に使用された場合、またはハンディキルター社が推奨しないテーブルで使用された場合に生じるいかなる損害に対するの法的責任の義務を負いません。

HQ カプリの各部名称（右側面）

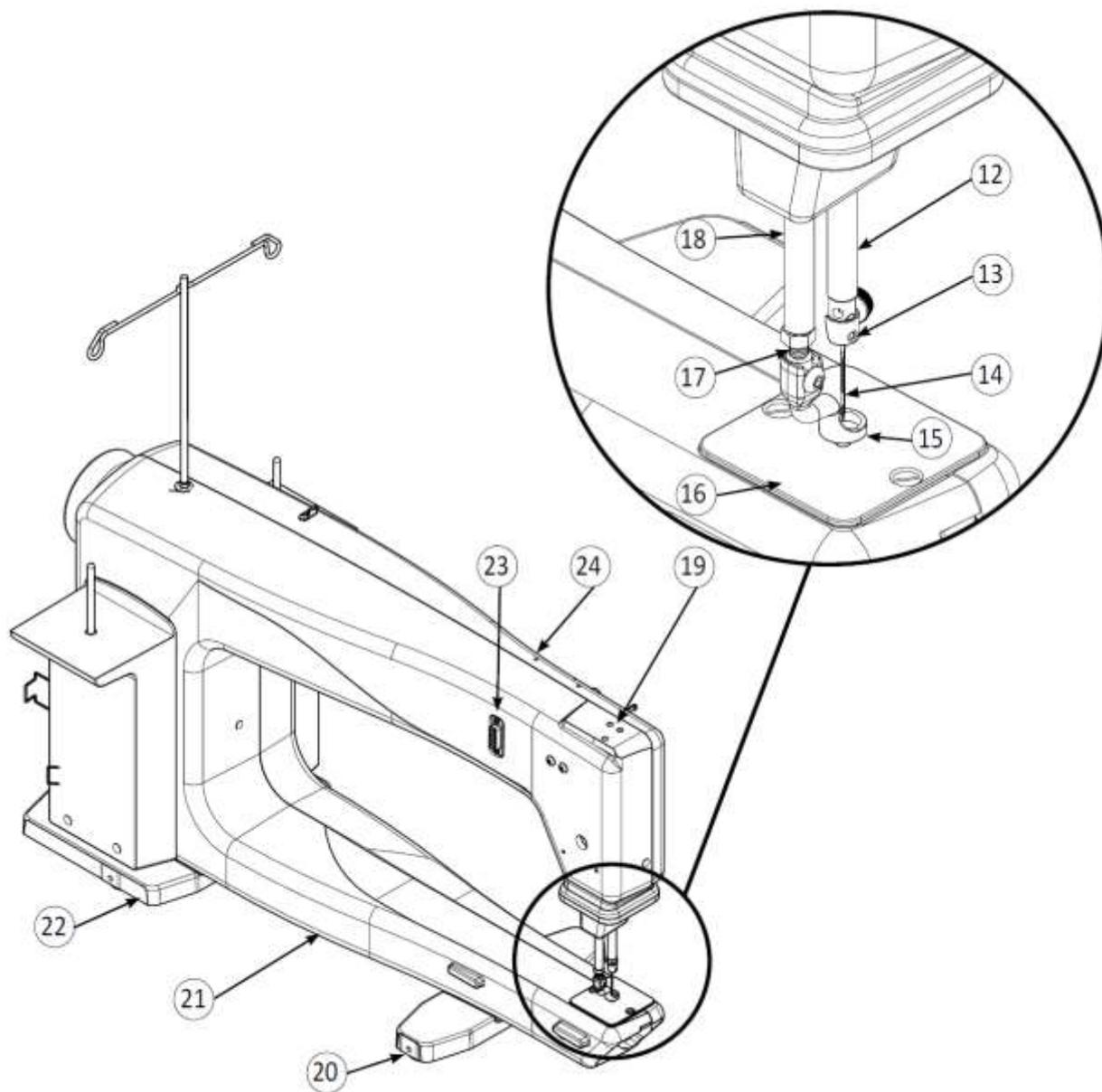
説明の無い仕様について：

HQ カプリ 18 はアップグレードしてキルティングフレームに取り付けて使うことができるため、いろいろな機能が装備されていますが、スタンドアローンのキルティングマシンとしてご使用いただく上で、必要の無い機能の説明は省略しています。



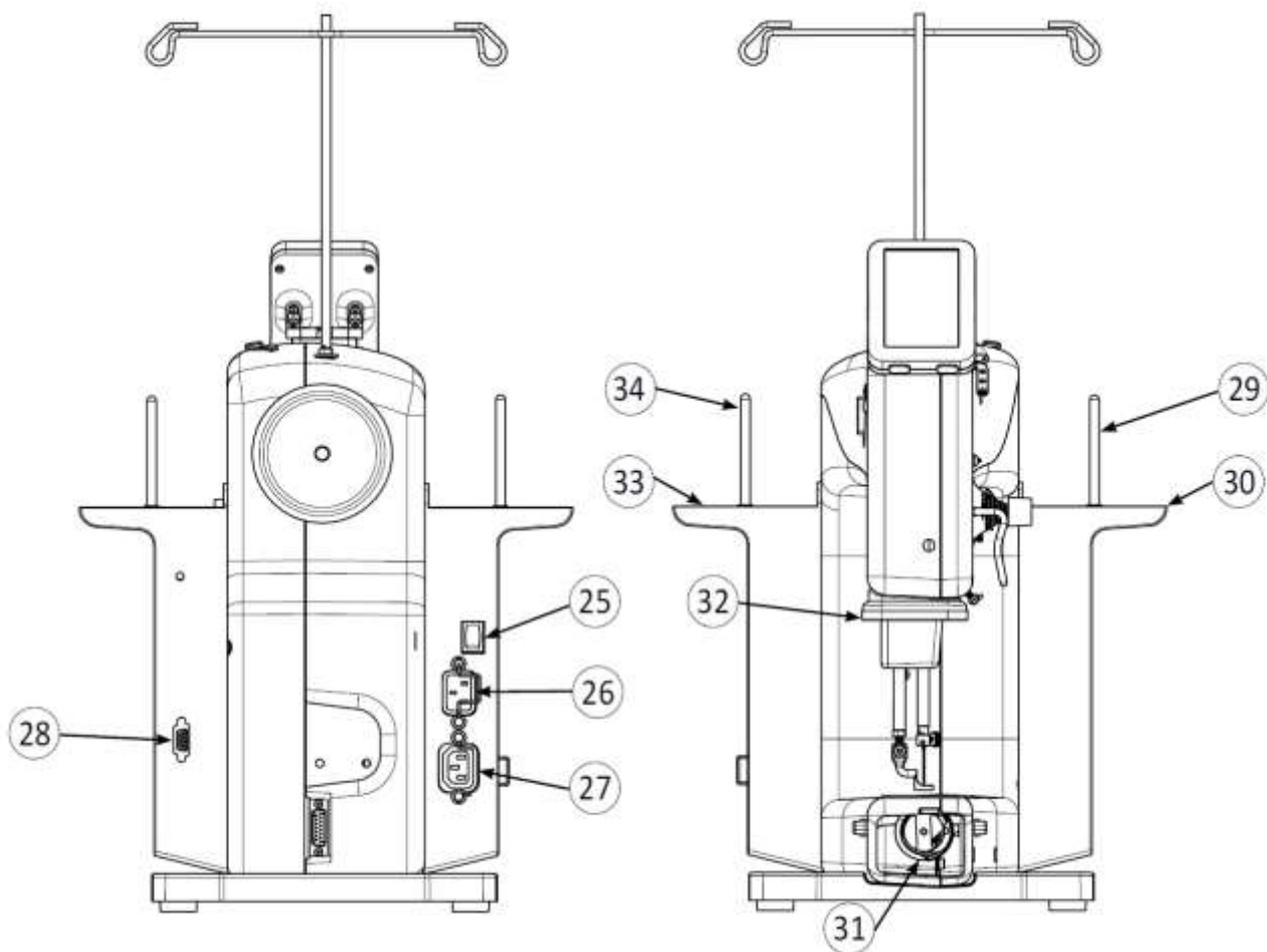
- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 上糸ガイド棒 | 7. 天秤 |
| 2. 上糸ガイド | 8. 上糸ガイド |
| 3. 3つ孔上糸ガイド | 9. 本体前面 |
| 4. 上糸ガイド | 10. 弾み車 |
| 5. 上糸ダイヤルテンション | 11. タッチスクリーン |
| 6. 上糸折り返しガイド | |

HQ カプリの各部名称（左側面と手元）



- | | |
|--------------|-------------------------|
| 12. 針棒 | 19. タッチスクリーン取付用ネジ穴 |
| 13. 針元上糸ガイド | 20. 前方支持脚 |
| 14. 針 | 21. 本体背面 |
| 15. ホッピング押え | 22. 後方支持脚 |
| 16. 針板 | 23. 液晶タッチスクリーン接続コンセント |
| 17. 押え取付ホルダー | 24. 水平糸たて棒（オプション）取付用ネジ穴 |
| 18. 押え棒 | |

HQ カプリの各部名称（後面、正面）



後面

正面

- 25. オン・オフ電源スイッチ
- 26. 電源コード接続ソケット
- 27. オプションアクセサリ用コネクター
- 28. フットペダルコネクター
- 29. 糸立棒 1

- 30. 電子基盤カバー／糸こま立て土台（C ポッド）
- 31. 大釜
- 32. LED 手元ソーイングライト
- 33. パワー基盤カバー／糸こま立て土台（P ポッド）
- 34. 糸立棒 2

インストールとセットアップ

テーブルの組立

HQ インサイト™ テーブルは HQ カブリ用に開発され、高速キルティングでも安定した設計になっています。高さの調整が可能です。

テーブルの組み立ては、HQ インサイト™ テーブルに付属の手順を参照してください。

ミシンをテーブルにセットする

1. ふたりに作業することをお勧めします。
2. ミシンの内側に片方の二の腕を通して、もう一方の手でミシンの底を支えるように持ち上げます。
3. ミシンベースにミシンをセットします。ミシンが左右の中央に位置するように配置します。
4. インサートをミシンに沿って滑り込ませ、きちんと収まるようにミシンを前後左右に微調整します。
5. 必要に応じて、インサートのトップとミシンのベッド面が均一になるように、ミシンのベースの高さを調整します。詳細については HQ インサイト テーブルの説明書を参照してください。

電源コードを接続する

まず、電源スイッチ（12 ページ、#25参照）がオフになっていることを確かめます。

電源コードを右図のようにミシン本体の電源用ソケットに接続します。プラグ固定ワイヤーでプラグを固定します。

この時点ではまだ電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。

電源用ソケット下のコネクタは別売りアタッチメントで使うもので、ここでは使いません。

フットペダルを接続する

1. フットペダルをミシン本体に接続します。
2. フットペダルを足元の操作しやすい位置に置きます。



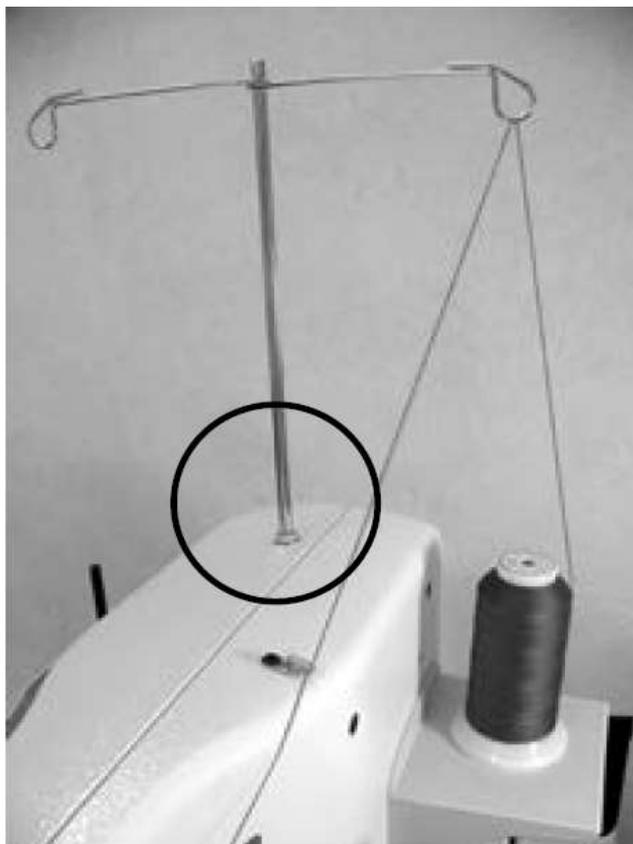
上糸案内棒を取り付ける

1. ミシン本体の上の弾み車近くにあるネジ穴を確認してください。
2. 糸案内棒にはナットとワッシャーが付いています。まずこれらをいったん取り外してください。次に取り外したナットだけ糸案内棒に取り付け、1cm くらい奥の方まで回しておきます。
3. 取り外したワッシャーをミシンのネジ穴に合わせておきます。
4. 糸案内棒をワッシャーを通して、ネジ穴に回しながら取り付けます。
5. 糸案内棒が右図のようにミシンに対して十文字の位置になるようにナットをしっかりと締め付けます。



メモ：糸案内棒先端のガイド輪が糸こまの真上に位置するように糸案内棒を固定します。

糸が絡まって上糸に余計なテンションが掛かるとステッチの制度に悪影響を及ぼします。



タッチスクリーンを取り付ける

タッチスクリーンはヒンジブラケットに取り付けられた状態で梱包されています。タッチスクリーンには D-端子のコネクターの付いたケーブルも取り付けられています。

 メモ：タッチスクリーンを取り付ける際には、電源スイッチがオフになっていることを確かめてください。

1. 梱包されているビニール袋から 2 本の長いボルトを取り出します。
2. ミシン本体の前方上に 3 個のネジ穴があります。(11 ページ、#19 参照) 一直線に並んだ 2 個のネジ穴を使います。3 番目のネジ穴は使いませんのでここでは無視してください。
3. タッチスクリーンについているブラケットの 2 個の穴をミシン本体上の 2 個のネジ穴にそろえます。このとき、タッチスクリーンが正面を向いていることを確認します。
4. 同封の 5mm の六角レンチを使い、2 本のボルトでブラケットを取り付けます。しっかりボルトを締め付けてください。
5. D-端子をミシン横のコネクターに接続します。(11 ページ、#23 参照)
6. タッチスクリーンから保護用ビニールシートを取り除きます。



ミシンを使ってみる

針と糸の選び方

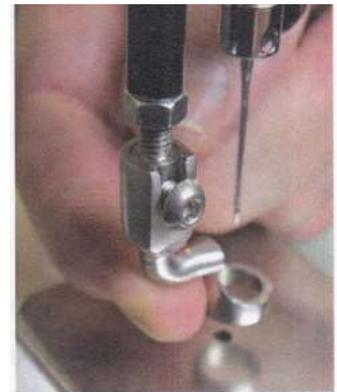
針は工業用の丸針を使います。タイプは国際基準の DP×5 という番手です。

針サイズ	糸のタイプ
#12 (80)	モノフィラメント、シルク 100 番、ポリエステル 60 番 マイラー
#14 (90)	シルク 60 番、モノフィラメント、グリッター、メタリック糸
#16(100)	60 番、50 番、40 番、モノフィラメント、グリッター、メタリック糸
#18(110)	50 番、40 番、30 番、メタリック糸
#21(125)	30 番、20 番、12 番

押え金の着脱方法

このミシンには、標準フリーモーション押えとオープン型フリーモーション押えの 2 種類の押え金が付属されています。通常は標準フリーモーション押えを使ってキルティングします。極細かなキルティングをするときや、頻繁に上糸を交換するときなどはオープン型が便利です。

1. 押え金を取り外すには、止めネジを付属の 2.5mm L 型六角レンチを使って、押え金が滑り落ちるくらいにネジを緩めます。緩めすぎるとネジが外れます。
2. 押え金を取り付けるには、押え金をネジにあわせて下から押し上げるようにしっかりと差し込みます。(写真右上)

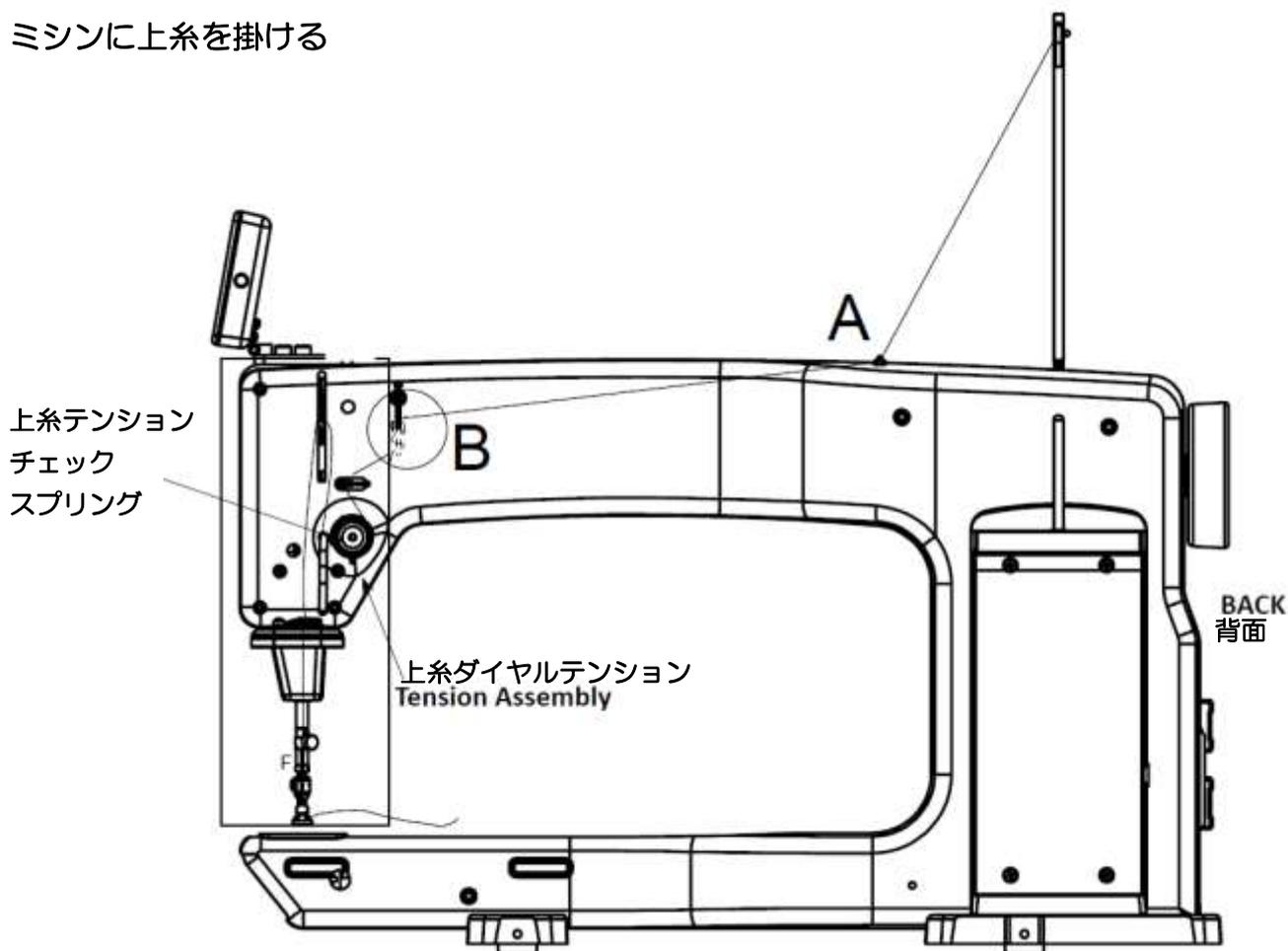


2.5mm L 型六角レンチを使ってネジを締め付けます。針が押え金の中心にあることを確かめます。(写真右下)



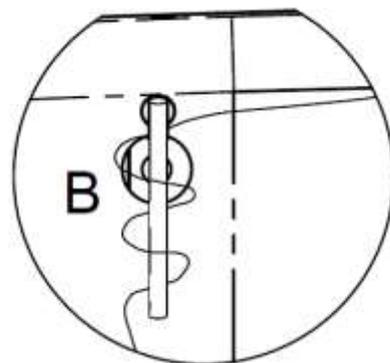
3. 取り付けした押え金の中心と針板の針穴を見比べて、針穴が押え金の真ん中に位置していることを確かめます。もしずれていたら、付属品のスパナレンチ(写真左)を使って押え金の上にあるナットを緩めて穴の位置と押え金の位置を合わせます。押え金が回らないようにしっかりと持ってスパナレンチでナットを締め付けて位置を修正します。(写真左)

ミシンに上糸を掛ける



1. 糸立て土台に糸こまをセットします。ミシン用の糸こまを使うときは必ず糸こまの糸端止めのカットが下に向いていることを確かめてください（逆にすると糸が切り込みに引っ掛かり上糸の流れを止めます）。糸こまから糸を引き出し、糸案内棒のガイド穴に糸を掛けて、上糸ガイド A に通します。
2. 続けて糸ガイド B に通します。いちばん上の穴に後方（図では右側）から通して、巻くようにして2番目、3番目の穴に通します。（右下拡大図参照）

 メモ：B の糸案内の3個の穴に糸を通すのは、糸のよりを戻すためのもので、この糸ガイドを通すと糸がよれたままダイヤルテンションに上糸が引き込まれて、糸のテンションが変わるのを防ぎます。通常、コーンタイプ（工業用糸タイプ）の糸こまを使うときには必ずこの3個の穴を通して糸を掛けてください。繊細な糸や切れやすい糸では、穴をひとつ、またはふたつ飛ばしてもかまいません。

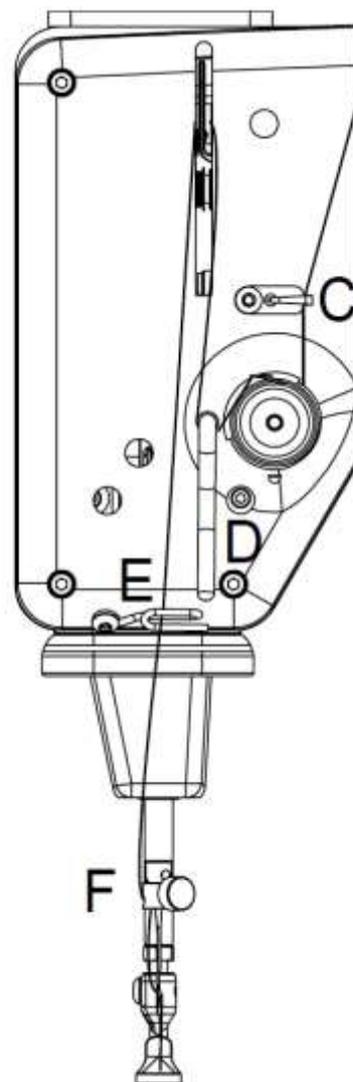


 メモ：ミシンに同梱されているUSB（英語版）をご覧ください。このUSB は www.HandiQuilter.com からダウンロードできます。

3. 続けて上糸ガイド C に通して、上糸ダイヤルテンションに糸を掛けます。

 **メモ：**上糸を完全にダイヤルテンションの2枚のディスクの間に奥深く入れます。十分深く入らず、浮いているような状態では糸調子がうまく取れません。キルティングミシンでは家庭用ミシンのように押え金を上げると上糸ダイヤルテンションディスクが自動で解放されるような構造になってませんので、必ず上糸を両方の手を使って引っ張り上げるようにして上糸ダイヤルテンションに糸を掛けてください。

3. 次に上糸ダイヤルテンションのチェックスプリングに上糸を引っ掛け、下方に引き下げ、上糸ガイド D に後ろから前に、図では右から左に、掛けます。
4. 上糸ガイド D から糸を上引っ張り上げて、天秤の穴に後ろから前（図では右から左）に向かって糸を通し、そのまま引き下げて上糸ガイド E に通します。このとき、上糸を引っ張ってみて、糸に強い抵抗を感じられない場合は、上糸が上糸ダイヤルテンションに正しく掛かっていないと思われます。
5. 上糸を針まで引き下ろして、針元上糸案内 F の穴に上から下へ通し、最後に上糸を針に前から後ろに、図では左から右に通します。
6. 針の周りで糸が絡まっておらず、針の前方の溝に糸が納まっていることを確かめてください。



 **重要！：** HQ カプリ 18 には、普通のミシンのように押え上げやテンションを開放する装置が付いていません。

家庭用ミシンでは、押え金を上げると上糸ダイヤルテンションディスクが開放されて、上糸が掛かりやすく、また上糸を操作しやすくする装置があります。HQ カプリ 18 にはこのような装置はありません。上糸は常に圧力が掛かった状態です。上糸ダイヤルテンションディスクが開放されることはありません。

上糸を掛ける際には、細心の注意を払って、上糸がダイヤルテンションに深くセットされていることを確かめてください。

針に通った上糸を引き出したいときは、左手で糸先をしっかり持ち、右手指で天秤と上糸ガイド E の中間点を手前に引いて上糸を引き出します。

針の交換方法

このミシンの標準針は#16です。

ミシンに取り付けられている針は、工場でのテストのために20分間使われています。輸送中のダメージや、開梱時に傷をつけている懸念もあります。この点を十分ご理解頂き、初めて縫ったときに異常が無いかどうかを確かめて、必要に応じて新しい針に交換してください。

1. 電源スイッチをオフにします。弾み車を手で反時計回りに回して、針棒を最上点に上げます。
2. 針が取り外せるくらいまで針止めネジを緩めます。ネジが硬く締まっているときは付属品の2.5mmL型六角レンチを使います。
3. 針を下方向に抜き取ります。古い針は処分します。
4. 新しい針の前方にある溝が手前に向いていること、そして針の裏側のくぼみが弾み車側に向いていることを確認し、針が止まるまで上に差し込みます。このとき、写真に示されている「のぞき穴」から針の先端が見えることを確かめてください。

針止めネジを指先でしっかり締め付けた後、2.5mmL型六角レンチを使って軽く締め付けてください。ただし、あまり強く締め付け過ぎると針のスカート部分を傷つけたり、止めネジがつぶれてしまったりしますので気をつけましょう。



メモ：新しいキルト制作に取り掛かるとき、また針先が傷んでツブツブと布に刺さる音が聞こえるようになったとき、針が曲がったときなどは新しい針に取り変えましょう。



☞ 重要：針を交換した後、「のぞき穴」見て針の先端がストップ位置まで挿入されていることを確認してください。針が中途半端に取り付けられていると、目飛びや糸絡みの原因となりますし、時には針が折れてキルトや、内部部品を傷つけかねません。

△ 注意：ハンディキルターミシンは家庭用ミシンのスピード(約1000針/分)よりはるかに早く1800~2500針/分で動きます。僅かな針の取り付けミスで大変大きな問題を招くこととなります。くれぐれも針の交換にはご注意ください。

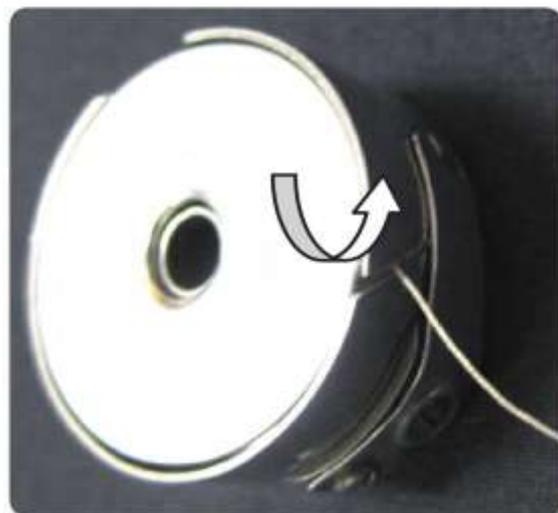
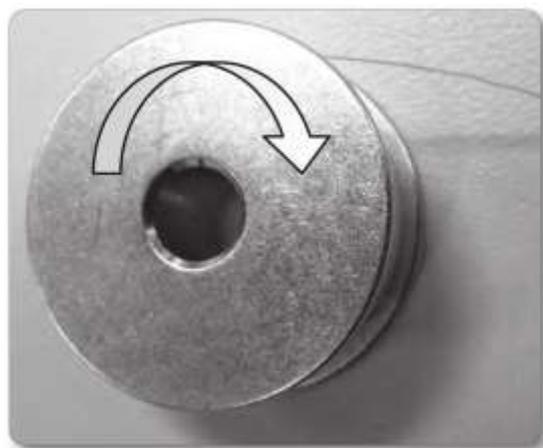
申し上げるまでもなく、あなたのキルトに比べれば針の値段は安いものです。惜しまずに5~7時間のソーイングを目安にして、更に硬い生地や安定紙などを縫ったときは早めに思い切って交換しましょう。

ポビンケースと下糸のテンションの調節方法

ポビンの着脱方法

 メモ：ポビンケースの着脱時や、針の周りで作業するときには、必ずミシンの電源をオフにしてください。

1. ポビンをポビンケースに装着します。このとき糸の向きは右の写真のように時計回りです。
2. ポビンケースの糸道を通して糸を引きながらポビンケースのばねの下をくぐらせて、10cm以上引き出します。
写真下



3. ミシンにポビンケースを取り付けるには、まずポビンケース本体を親指と人差し指で持ちます。このときポビンケースの折りたたみ式のつまみを起こして持たないように！ポビンケースの開口部を真上に向けた状態でポビンケースを釜の中の軸に中心を合わせてパチンとはまるまで押し込みます。ポビンケースがしっかり取り付けられたかどうか、ポビンケースを指先で回転方向に動かしてみたり、弾み車を手で回してみてもポビンケースが落ちてこないのを確かめます。ポビンケースから出ている下糸は垂らしたままです。



 メモ：ポビンケースの上の折りたたみ式のつまみを起こすとポビンケースの中のポビンを押し出すような力が掛かるので、この折りたたみ式のつまみはポビンケースを取り出すときのみ使いましょう。

 メモ：ポビンケースのテンションの調節方法は、次ページ、または同梱されたUSBを参考にしてください。このUSBの内容は www.HandiQuilter.com でもご覧になれます。

下糸を引き上げるには

1. 針に上糸を通したら、電源スイッチをオンにします。3層のキルトを押えの下にセットします。
2. 左手で上糸をしっかり持って次のいずれかの方法を選んでください。(このとき下糸がボビンケースから10cm以上引き出されていることを確認してください。短いと上がってきません)
 - A) フットペダルを使う方法：非常に軽く素早くペダルをワンタッチで踏みます。このとき針が下がります。もう一度軽く素早くペダルをワンタッチで踏むと、針が上がって下糸を引き上げてきます。
 - B) タッチスクリーン中央にある針上下ボタンを軽く1度タッチすると、針が下がります。もう1度軽くタッチすると針が上がって、下糸を引き上げてきます。
 - C) タッチスクリーン中央にある針上下ボタンをタッチして針があがってくるまで押したままにします。針がいったん下がり、再び上がってきたときに指をボタンから離すと針が下糸を引き上げてきます。
3. 上糸を持ったままでキルトを10cmほど手前にゆっくり引き寄せます。
4. 下糸が引き上げられてきます。指で適当な長さまで引きだしてください。

下糸テンションのチェックと調節方法

ボビンケースのテンションは糸の調子の基本です。ボビンケースのテンションが適切かどうかをテストするには、ボビンケースの開口部を上にして掌に乗せます。もう一方の手の指でボビンケースから出ている糸をつまんでボビンケースを引き上げます。指を前後に(上下ではなく)揺らしたときに、ボビンケースがぶら下がらずに掌の上でゆっくりとずり落ちる程度が適正です。

調節するには小さなドライバーで写真のようにネジを緩めるか、締め付けるかして調節します。時計回りに回すと強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。ネジを回す前に、ネジの位置が時計の何時の方向をさしているかを覚えておいて調節します。ボビンの糸を入れ換えるたびにテンションをチェックしましょう。

下糸テンションを強くするには

先述の方法でボビンケースが掌の上から全然立ち上がらないようなら、テンションが弱すぎます。ネジを時計回りに回してテンションを強くします。ボビンケースのネジは少しずつ回すのが基本です。時計に見立てて、5分ずつ早めるような感覚でネジを締めて調節します。



下糸テンションを弱くするには

掌からボビンケースを吊り上げ、前後に揺らしてもボビンケースが落ちていかないようなら、テンションが強すぎます。ネジを反時計回りに回してテンションを弱くします。ネジは時計に見立てて5分刻みでネジを回してテンションを調節します。

Easy-Set Tension™(イージー上糸テンション)の調節方法

 **重要**：必ず先にボビンケースのテンションを確かめてから、上糸テンションを調節します。

上糸の調子が強すぎると、パッカリング（布にしわがよる）状態や、縮んだり、糸が切れたりします。また逆に、上糸テンションが弱すぎるとステッチにたるみができて糸がループ状になったり、布の裏側で糸が絡んだりします。布や糸、キルト芯に応じて糸の調子を調節する必要があります。

上糸調節ダイヤルテンションを回すと画面に表示された上糸の強さを表す数字が5単位で変化します。糸調子を合わせてみて、納得する状態が得られたら、この時の数値、上糸の種類と番手、そして下糸の種類と番手をメモするようにしてください。こうしてご自分の糸の強さの早見表を作ってください。（右図矢印）



ボビンケースのテンションの調節と違って、上糸の調節は、使う糸により上糸ダイヤルテンションのつまみを1/4回転から2~4回転ほど回さなければならないときがあります。

上糸テンションを強くする

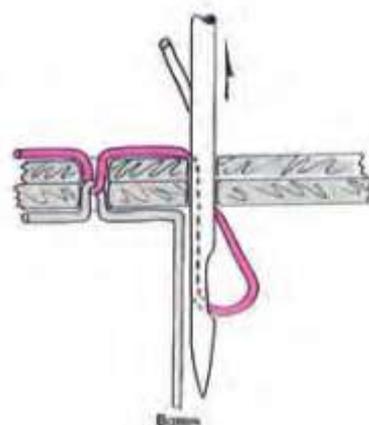
上糸テンションを強くするには、ダイヤルテンションのつまみを時計回りに回します。

上糸テンションを弱くする

上糸テンションを弱くするには、ダイヤルテンションのつまみを反時計回りに回します。



 **メモ**：上糸のテンションを調節する前に、上糸がしっかりとダイヤルテンションのディスクの間に深くはまっていることと、ディスクから糸が浮き上がっていないかを、上糸を両手で引っ張って確かめてください。糸がしっかりとダイヤルテンションに掛かっていないと、ステッチの糸の締りが悪くなったり、布の裏側で糸が絡んだりします。上糸が緩すぎると、キルトの裏側で糸がたるんでループになります。このような状態ではダイヤルテンションのつまみをいくら回しても糸のテンションが変わりません。必ず上糸がダイヤルテンションの2枚のディスクの間に奥深くしっかり掛かっていることを確かめてください。



ステッチバランスが綺麗にとれているときは、上糸と下糸がキルトの3層の間で交わっているような状態になっています。



メンテナンスの方法

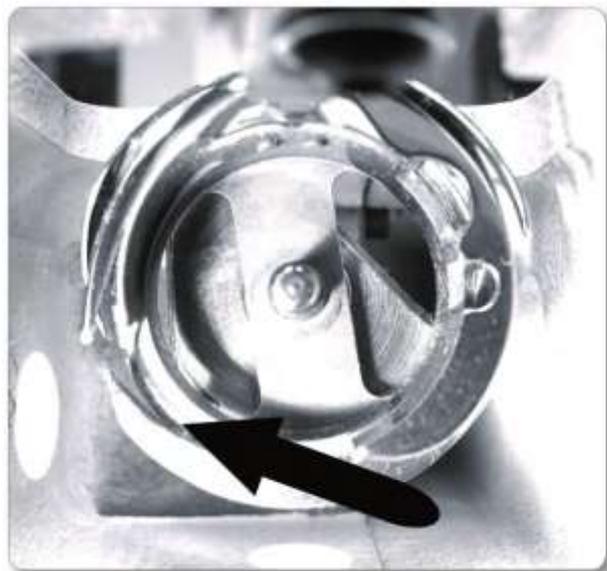
 **メモ**：メンテナンスをするときは必ず電源スイッチをオフにして、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。

ミシンのクリーニングと注油の方法

必ずHQ社指定の上質なミシン油を使ってください。ユーザーによる定期的なメンテナンスは釜周辺の掃除と注油だけです。内部機構の注油に関しては、サービスに出していただいたときに、技術者が必要な内部への注油をすることになっています。釜周辺への注油を怠ると、音が大きくなり、深刻な故障につながりますのでご注意ください。

注油をするには、まずミシンの電源を切ります。ポビンケースを取り外し、釜周辺の糸くずや布粉などをブラシで掃除します。オイル一滴程度を、ポビンケースと釜が触れ合うあたりに注油します。(写真右)

大釜が回転しても中釜は常に同じ位置に保たれています。この中釜と大釜が触れる円周面に注油してください。



注油の頻度はミシンを使う頻度によります。しばらく使わなかったときや、ポビンを出し入れする度に注油することをお勧めします。注油のあとは必ず捨て布で試し縫いをして余分なオイルを取り除くようにしましょう。油切れ状態は、釜音が大きくなることで気がつくでしょう。ステッチの精度にも影響しますのでご注意ください。

タッチスクリーンのクリーニング

柔らかい布にガラスクリーナーを浸して軽く画面を拭いて、汚れなどを落としてください。シンナーや油、溶剤の入ったクリーナーは絶対に使わないでください。画面を傷つけるだけでなくタッチスクリーンの反応が損なわれます。

タッチスクリーンを使ってみる

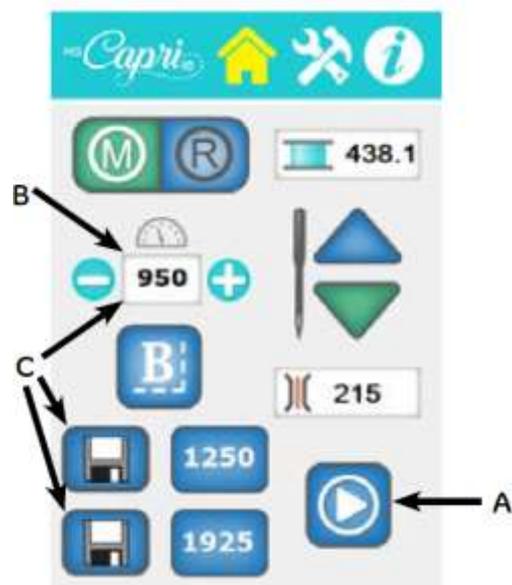
 メモ：同梱の USB で HQ カブリ 18 の画面メニューの操作方法を確認してください。

HQ カブリ 18 は、ミシンの正面上にカラー液晶タッチスクリーンが取り付けられています。

画面に表示された M と R のアイコンは
M: マニュアルステッチモード
R: ステッチレギュレーターモード
を選ぶボタンです。

マニュアルモード機能

画面上の M のアイコンをタッチしてマニュアルモードを選ぶとアイコンの色がグリーンに変わります。



(A) 休止/スタートボタン

休止/スタートボタンは画面右下の右▷ボタン(A)です。このボタンをタッチするとフットペダルを踏み込まなくてもミシンをスタートできます。ボタンをタッチすると、ボタンカラーは緑色になり、右▷から縦に2本線の休止ボタン(II)に変化します。ミシンを止めるには休止ボタンをタッチします。ミシンが停止してボタンは右▷ボタンに変わります。



休止ボタン

画面の右▷ボタンをタッチする代わりに、ミシンのフットペダルを踏み込むと、ミシンがスタートし、画面上の▷ボタンは緑色の休止ボタンに変わります。フットペダルを踏むのを止めると▷ボタンに変わります。

(B) マイスピード

現在セットされている最高スピードが (B) に表示されます。ミシンをスタートさせるといま縫っているスピードが表示されます。最初に示されていた最高スピードは、ペダルをいっばいに踏み込んだ時に到達するスピードです。

(C) 最高スピード

ふたつのプリセットスピードボタンが用意されています。ご自分で好みのスピードにセットすればこのボタンをタッチするだけでスピード範囲を選ぶことができます。

スピードを速く、または遅くしたい時は画面上の (+) または (-) ボタンを押して調節できます。

ヒント! : マニュアルモードでステッチを揃えるには、フットペダルをオン・オフスイッチとして使い、常にペダルをいっばいに踏み込みスピードを一定にキープし、キルトを動かす手も同じスピードで動かします。

(D) プリセットスピード

2種類のプリセットスピードを登録できます。例えば、ひとつはルーラーワーク用に400spmのスローで、もうひとつはスティップリング用に1000spmの高速でプリセットするという感じです。

どちらかのボタンをタッチすると現在セットされているプリセットスピードが前画面のBに表示されます。速度を変えるには、

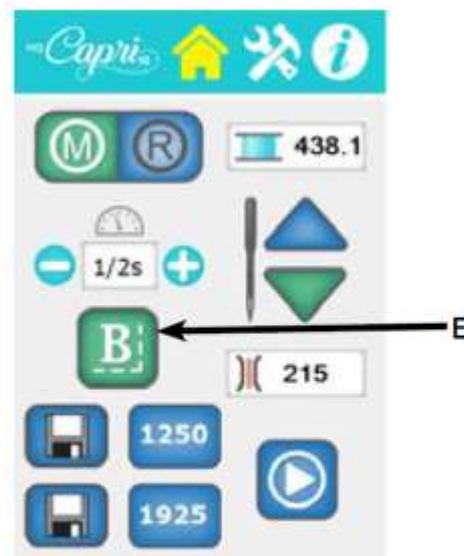
(+) または (-) ボタンをタッチして好みのスピードに変更します。そして、新しく変更したスピードを登録したい時は隣のフロッピーディスクボタンをタッチします。



(E) マニュアルモードのしつけ縫い

HQ カプリ 18 にはしつけ縫い機能が用意されています。

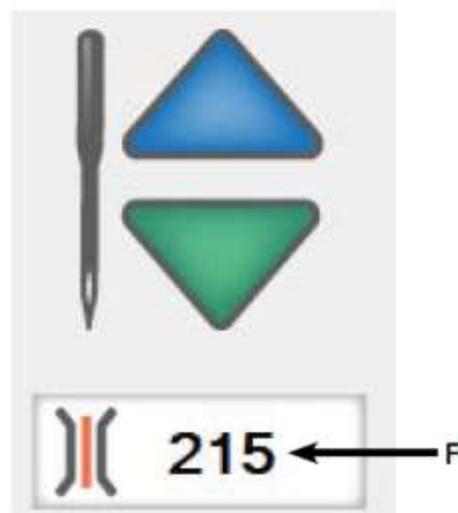
画面右、中央のB (Basting : しつけ縫い) のボタン (E) をタッチします。Bのボタンの真上のスピード表示窓にしつけ縫いのインターバル秒が表示されます。(+) または (-) ボタンをタッチすると、インターバルが、1/2s、3/4s、1.0s、1-1/2s、2.0sなどと表示されます (s=秒を表します)。フットペダルを踏み込むとミシンは一針縫っては選んだインターバルの時間だけ針が停止します。その間にキルトを好みのしつけ縫いの長さだけ動かします。これを繰り返してしつけ縫いをします。しつけ縫いを終わるにはBアイコンをタッチします。しつけ縫いを始める時は、下糸を引き上げ、上下の糸を指でしっかり持ち、縫い始めます。



(F) 上糸テンションを調節する

画面右側中央付近に表示されている数字、右上の図では「215」が上糸テンションの強さを表示しています。上糸ダイヤルテンションを時計回りに回すとこの数字が5単位で増えて糸調子が強くなります。また、反時計回りに回すと数字が5単位で減って上糸調子を弱くします。

上糸をセットして、端切れでテストして糸調子を合わせます。その時の布の種類、上糸と下糸のブランド、タイプ、番手をメモして、テンションの数字を書いておくと次に同じ条件で縫う時には素早くテンションをセットできます。



(G) 下糸残量表示

下糸残量計測機能を使うとスクリーンの下糸残量表示窓に残量が%で表示されます。(右図 G)
縫うにしたがって数字はゼロになるまでカウントダウンされます。ゼロになる前に警告音が下糸切れを知らせてくれます。残量はいくまでも予測値ですので正確な残量ではありません。目安として利用します。
ボビンの最大巻量を登録している場合は REC が表示されます。登録を解除すると残量が表示されません。登録の仕方は 30 ページ参照。



(H) 針の停止位置を選ぶ

針停止位置表示 H (右図参照) は針の停止位置を示します。選んだ停止位置は緑の表示で示されます。
▲(上)モードが選ばれているときは、ペダルから足を離すとまたは休止/スタートボタンをタッチすると、針は上位置で停止します。針停止位置▼(下)モードが選ばれているときは、足をペダルから離す、または休止/スタートボタンをタッチすると、針は下で停止します。



(I) 針を上げる/下げる/留め縫いする

画面の中央右にある針の絵と上下の▲▼のボタンは、フットペダルを使わずに画面上でタッチして、針を上下、また留め縫いに使います。▲ボタンまたは▼ボタンをクイックにタッチすると針を上げ下げできます。

針が上で停止している場合に▼ボタンをクイックにタッチすると針が下がります。針が下に止まっている場合に▲ボタンをクイックにタッチすると針が上がります。

ボタンを押し続けると押し続けている間、針がゆっくり上下します。縫い始めと縫い終りで留め縫いするには3~4針縫います。ボタンから指を離すと針は停止します。

ステッチレギュレーターモード機能

画面上のRアイコンをタッチするとボタンが緑色になり、ステッチレギュレーターモードになります。(画面右)

ステッチの長さをセットする

ステッチレギュレーターで縫うステッチの長さが画面左中央付近に表示されます。1インチ(2.54cm)当たり何針縫うかが表示されます。右側の画面では10が表示され1インチに10針で1針の長さは約2.5mmとなります。ステッチの長さを大きくしたときは(-)マイナスボタンをタッチして、例えば8にしますと、 $2.54 \div 8 =$ 約3mmになり、逆にステッチの長さを小さくしたいときは(+)プラスボタンをタッチして、例えば12にしますと、 $2.54 \div 12 =$ 約2mmとなります。4(6mm)~22(1.2mm)の間で調節できます。

しつけ縫い

4種類のしつけ縫いの長さが選べます。ステッチの長さを4にセットした後に続けて(-)マイナスボタンを繰り返しタッチすると下記のしつけ縫い長さが表示されます。

- 0.5インチ： 布を0.5インチ(約1cm)動かす度に1針縫います
- 1インチ： 布を1インチ(2.5cm)動かす度に1針縫います
- 2インチ： 布を2インチ(約5cm)動かす度に1針縫います
- 4インチ： 布を4インチ(約10cm)動かす度に1針縫います

しつけ縫いの長さを決めたら、画面上のスタートボタン▶をタッチするか、フットペダルを踏み込みます。布を動かすと選んだしつけ縫いを実行します。布を動かし続けます。

ステッチレギュレーターモードにはプレジジョン(正確)モードとクルーズ(巡航)モードがあります。

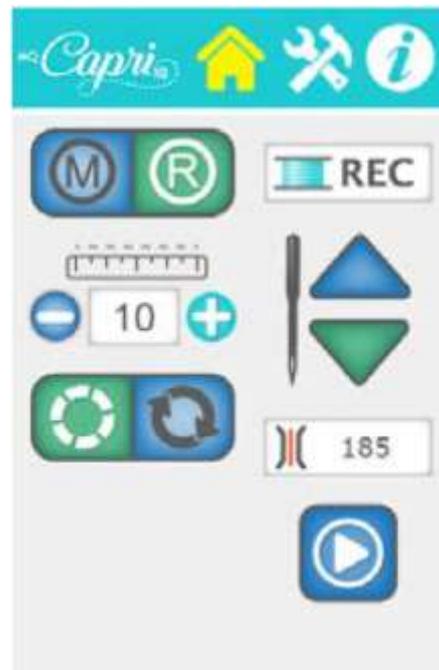


プレジジョン（正確）モード

プレジジョンモードが選択された場合、スタートボタンをタッチ、またフットペダルを踏み込むと最初の一針を縫った後、ミシンは布が動かされるまで動きません。

ルーラーワークなどには便利です。

メモ！:このモードを使っているときにミシンから離れるときは、必ず休止ボタンをタッチしてミシンを停止させてください。ミシンは動いていませんが、布が動くと同時にミシンが動きます。ご注意ください。



クルーズ（巡航）モード

クルーズモードが選ばれているときに、フットペダルを踏み込むか、または画面上のスタートボタン▷をタッチすると、ミシンは画面左下に表示されたクルーズ速度で動き出します。ミシンの速度は布を動かす速さで変化します。クルーズ速度とは、縫い始めに針が動く速度で、途中で布を止めてもクルーズ速度で縫い続けます。

クルーズ速度は画面上の（+）か（-）ボタンをタッチして調節できます。慣れるまではスローで、慣れてきたらクルーズ速度を自分のキルティングスタイルに合う速度に調節してみてください。

縫い方：2通りの縫い方が出来ます。

- （1） フットペダルをスイッチとして使います。スタートするにはフットペダルをスイッチ代わりに踏むと針が動き出します。最初の2～3針は布をわずかに動かして留め縫いし、続けて布を動かすと布の動く速さに合わせてミシンの速度が変わります。出来るだけ一定の速さで布を動かすのがきれいに縫うコツです。ミシンを止めるにはフットコントローラーから足を離します。このモードではフットペダルでスピード調節は出来ません。

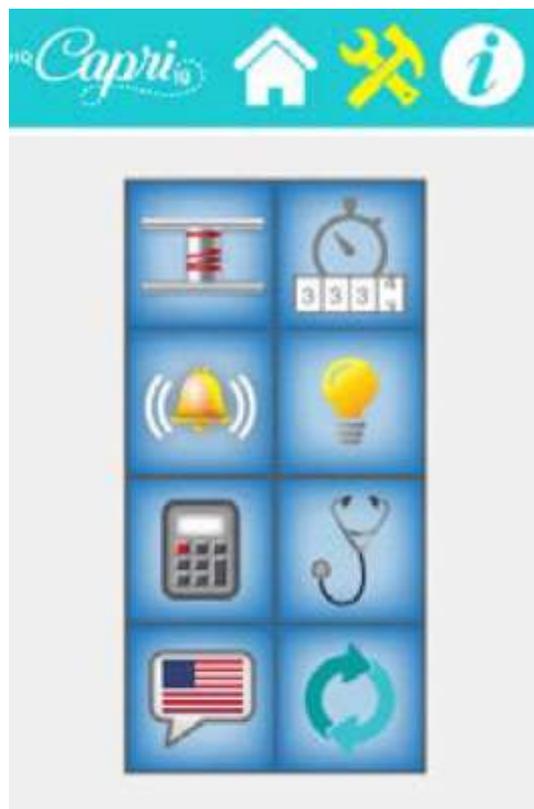
- （2） 画面上の休止／スタートボタンを使って縫う

画面上の矢印（▷）ボタンをタッチするとミシンがスタートし、矢印の表示が休止（||）に変わります。止めるには休止（||）ボタンを押します。



ツールメニュー

ツールメニューはHQ Capri 18の各種機能を設定するメニューです。



下系残量警告

ボビンの糸の残量を警告する機能です。



タイマー機能

プロジェクト毎にどれだけの時間/ステッチ数をソーイングしているかを記録しています。



アラーム機能

ふたつのアラームが用意されています。ひとつはレギュレーターモードで縫っているときにスピード制限を超えると警報を鳴らします。もうひとつはアラームをセットできます。



ソーイングライト

2か所のソーイングライトのオン/オフと照度の調節が出来ます。



電卓機能

オンボード計算機を画面に表示します。



診断メッセージ (一般ユーザーは使いません)

ボタンをタッチすると、診断メッセージ画面を表示します。この画面はハンディキルターの技術者が使うサービス情報を提供しています。



言語選択機能

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語を選択できます。



システムアップデート機能

ミシンのハードウェアやファームウェアのバージョンアップを実行するときに使います。



ホームボタン

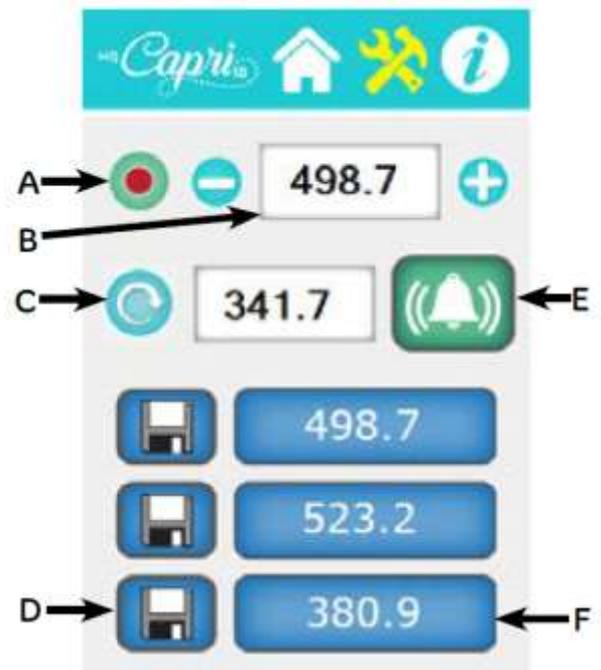
画面上端に表示されたホームボタンをタッチするとメインメニュー画面に戻ります。

下糸残量警告

下糸の残量を予測して警告音で知らせます。この予知機能は糸のタイプによる異なる糸の巻き量に基づき、糸のテンション、ステッチの長さ、縫い始めと縫い終わりに引き出す糸の量などのファクターを元に計算して予知し、警告します。

ポビンに巻ける糸の量を計測するには、まず使う糸をポビンいっぱい巻き、ミシンにセットし、赤Oのレコードボタン (A) をタッチして通常のキルティングを始めます。

ポビンの糸を使い切ったら、(A) のボタンをタッチします。ポビンに巻かれていた糸の長さがヤード (1 ヤード=約 91cm) で画面上 (B) に表示されています (図では 498.7)。これはポビンに巻かれていた糸の実際の長さなので、警告音を早めに鳴らすには (-) ボタンをタッチして 15~20 ヤード分戻します。この数値を画面上に3個あるメモリーのひとつ、例えば (D) の保存ボタンをタッチし、記録します。どの糸をどのボタンに記録したのかをメモしておきましょう。



ボタン

A=レコードスタート/ストップボタン

B=ポビン糸の容量表示

C=ニューポビンボタン

D=保存ボタン

E=警告音ボタン

F=保存された糸の長さ

ここでいっぱい巻いたポビンをミシンにセットし、ニューポビンボタン (C) をタッチします。次に警告音ボタン (E) をタッチします。縫い始めると下糸が減ってゆく状態が表示され、セットした長さを縫うと警告音が鳴って糸の残量が少ないことを知らせます。

ミシンは、1 インチ (2.54cm) 当たり 10 ステッチ縫うと仮定して糸の残量を算出しています。もし 10 ステッチ/インチよりも長い縫い目で縫うときは、画面上の (+) ボタンで糸の巻き量長さを多くする必要があり、10 ステッチ/インチよりも短いステッチで縫うときは、(-) ボタンで短くします。

マニュアルモードを使う場合も HQ カプリ 18 は、以前にレギュレーターモードで使ったステッチの長さで予測値を計算します。8ステッチ/インチより短くセットしてもミシンの機能は自動的に 10ステッチ/インチで縫っていると判断します。従って、マニュアルモードに切り替える前にレギュレーターモードでステッチの長さをセットしておくことをお勧めします。

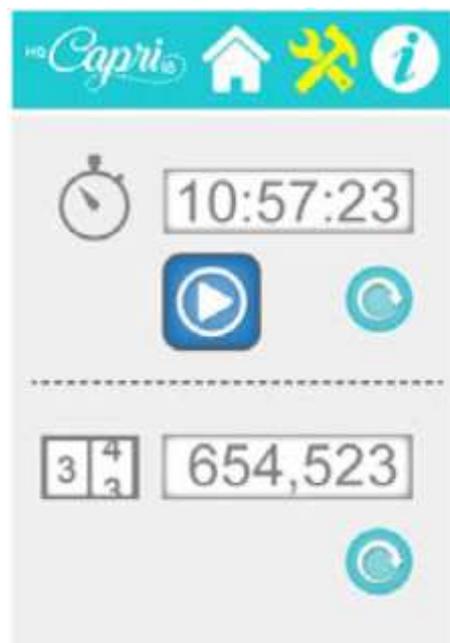
3つのメモリーボタンを使って、3種類の糸の巻量を記憶出来ます。糸をいっぱい巻いたポビンを使って記憶するプロセスを繰り返し、残量数値を保存します。その糸を使って縫うときは、記憶させたボタンをタッチします。糸をいっぱい巻いたポビンをセットして、その糸の保存ボタンをタッチし、ニューポビンボタン (F) をタッチして縫い始めます。

タイマー機能

キルトに要した時間を累積計算します。作業を始める時にリセットボタンをタッチして時間をゼロにし、スタートボタン▶をタッチして時間の計測をスタートします。ミシンの電源を切っても時間の記録は失われません。再び電源を入れて作業を続けると累積時間を積算してゆきます。リセットボタンをタッチしない限り、作業時間の累積を続けます。次のキルトに移る時は忘れずにリセットしてください。

ステッチカウンターは縫った針数を累積します。自動車のトリップメーターのようなものです。タイマーと同じ要領で使います。

ミシンの累積ステッチ数は情報画面で見ることが出来ます。



アラーム機能：

ふたつのアラーム機能が付いています。

ステッチレギュレーターモードで縫うときにベルマークの警告音ボタンをオンにすると、布の動かし方が速すぎる場合、ミシンは正確なステッチの長さをコントロールできなくなりピープ音で警告します。ピープ音が鳴らない範囲で縫うのが綺麗に仕上げるコツです。

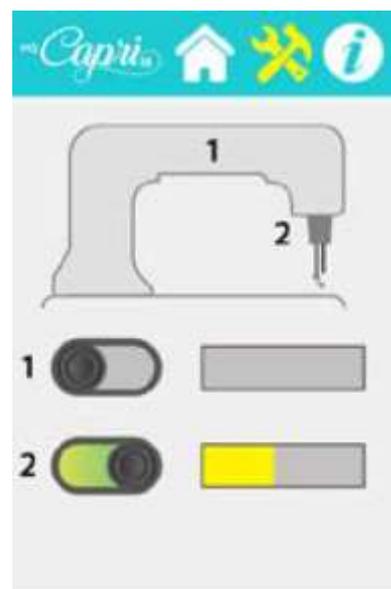
もうひとつはキッチンタイマーのように使います。警告音を鳴らしたい時間、例えば2時間後ならば（－）または（＋）のボタンをタッチして02:00:00とセットします。ベルマークをタッチするとカウントダウンがスタートし、2時間後に警告音を鳴らします。

お子さんのお迎えの時間がある時などに便利です。



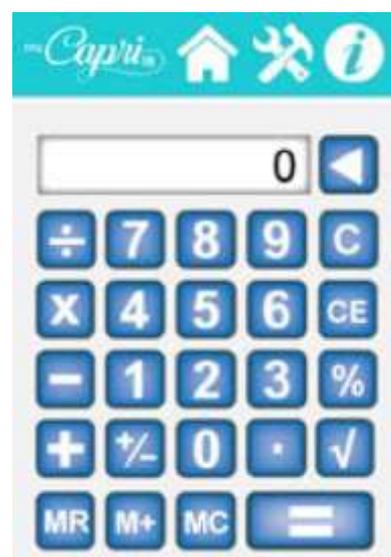
ソーイングライト

ソーイングライト（1）はミシン胴体に、（2）は針元の照明用です。左側のボタンはタッチしてオン/オフし、右側のスライダーで照度を調節できます。



電卓機能

オンボード計算機が内蔵されています。普通の計算機と同じ使い方でご使用ください。画面トップの左向きの矢印<ボタンは入力データを取り消すときにタッチします。

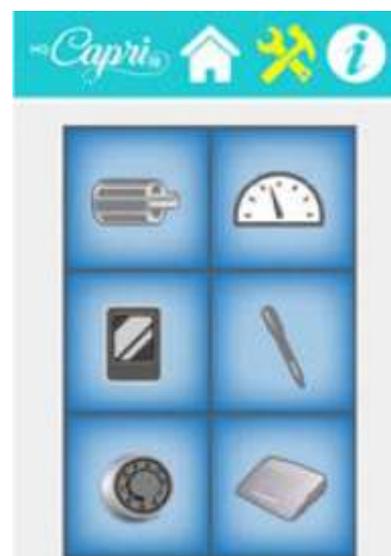


診断メッセージ（一般ユーザーには必要ありません）

HQ 技術者が使う6種類の診断メッセージが内蔵されています。この機能は、モーター回転のチェック、フットペダル、内部センサー機能を診断します。

- モーターセンサーテスト
- スピードセンサーテスト
- モーションセンサーテスト（ステッチレギュレーター）
- ニードルセンサーテスト
- ダイアルテンションリセット
- フットペダルテスト

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



診断メッセージ

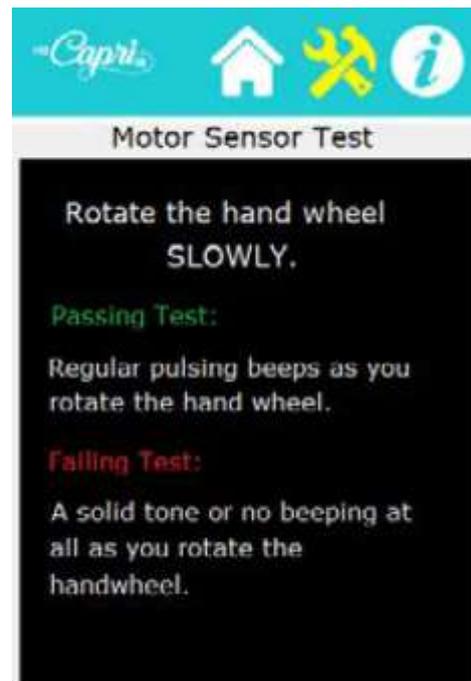
Motor Sensor Test : (モーターセンサーテスト)

モーターに異常が無いかを診断するテストです。

弾み車をゆっくり反時計回りに回したとき、パルス音が規則正しく聞こえれば正常です。

連続したピー音が聞こえる、もしくは何も聞こえない、以上の場合はモーターに異常があることを示しています。この状態のときは正規販売代理店にご相談ください。

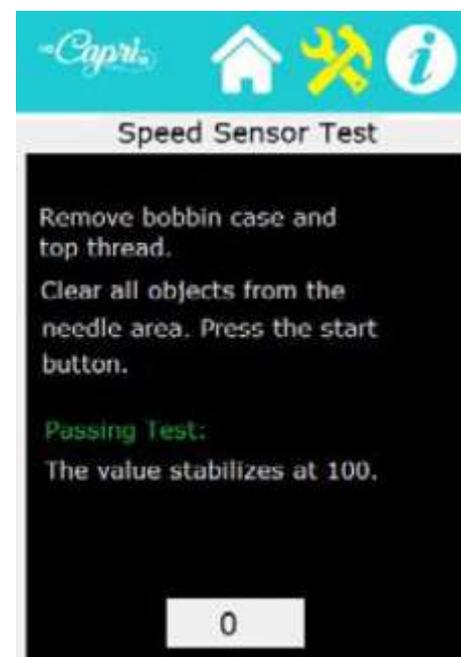
画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



Speed Sensor Test : (スピードセンサーテスト)

スピードセンサーに異常が無いかどうかをテストするプログラムです。このテストを実行する前にボビンケース、針、上糸を取り外してください。ペダルを踏み込むとミシンがゆっくりスタートします。センサーが正常に働いているときは、画面上に 100 の数字が表示されます。ペダルから足を離してテストを終わります。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



Motion Sensors : (モーションセンサーテスト)

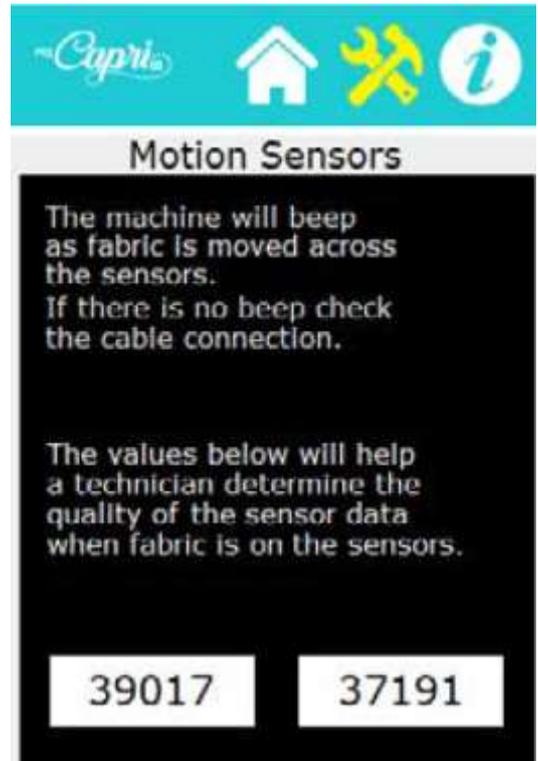
このテストは布を動かしたときにステッチレギュレーターのセンサーが正常に働いているかどうかをテストするものです。

押え金の下で布を動かしたときピー音が聞こえればセンサーは正常です。

ピー音が聞こえない場合、ケーブルの接続状態を確認してください。

画面下のふたつの数値は布を動かしたときにセンサーが読み取る数値です。

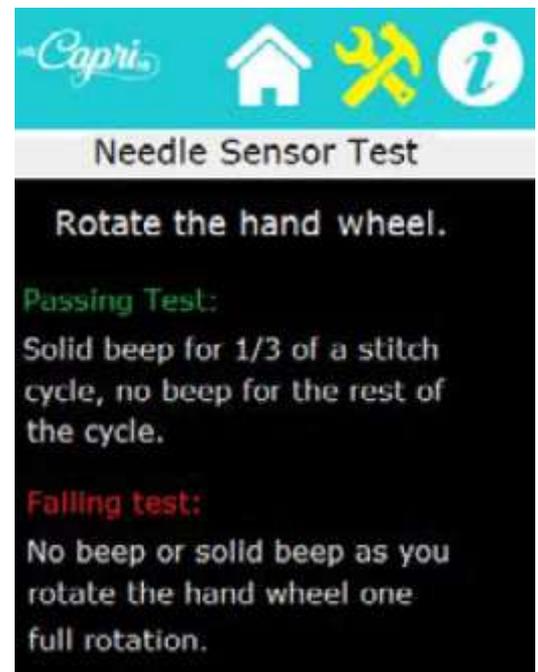
画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



Needle Sensor Test: ニードルセンサーテスト

ニードル停止位置センサーが正常に働いているかどうかをテストします。弾み車を手で反時計まわりに回すと、正常なら1/3回転する間ピー音が鳴り、あとは鳴らないで一回転するのが正常です。360度回転させたときにずっとピー音が聞こえているか、またはまったく聞こえないときは、ミシンのセンサーに異常があることを示しています。正規販売代理店にご相談ください。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。

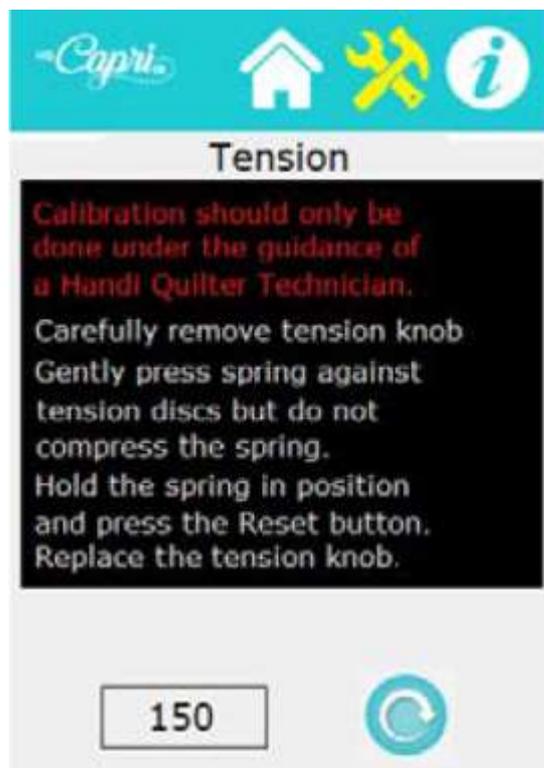


Tension：上糸ダイヤルテンションのリセット方法
ダイヤルテンションのセッティングをリセットできます。
この機能を使うときは必ずハンディキルター社のガイダンスに従って行ってください。

リセット中に以下の手順が画面に示されます。

- 1.テンションノブを取り外します。
- 2.軽くテンションバネをテンションディスクに押し付けます。バネを強く押さないように。
- 3.バネを押し付けている状態で画面上のリセットボタンをタッチします。
- 4.この手順でリセットが終わったらノブを戻します。

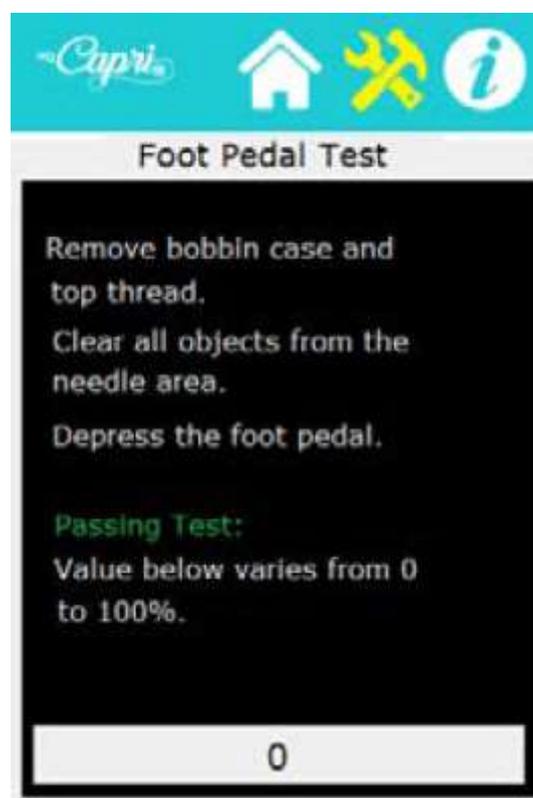
画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



Foot Pedal Test: フットペダルテスト

ペダルに異常が無いかどうかを診断するテストです。ボビンケースを取り外し、上糸も取り除きます。針の周りには何も無い状態にします。ペダルをゆっくり踏み込むと画面上のボックスにパーセントの数字が表示されます。ペダルを踏んで0%から100%の間で数字が変化すれば正常です。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



言語選択

言語の選択

1. ツールボタンをタッチします。
2. 選びたい国旗が出るまで国旗ボタンをタッチします。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語から選べます。
3. 使いたい言語の国旗が表示されたら、画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



ファームウェアのアップデート

1. 液晶画面に向かって右側の側面にある USB ポートに、更新プログラムが記憶された USB スティックを差し込みます。
2. 選択ボタンの表示がグレーからブルー/グリーンに変化するまで待ちます。
3. アップデートしたい対象、ミシン、画面、またはセンサーのいずれかを選びます。
4. 画面のアップデートを選んだ場合、画面が消えピー音が3回鳴り、アップデートが完了したら元の画面に戻ります。
5. いったん電源を落とします。
6. ミシンのアップデートを選んだ場合、画面はそのまま表示され、カウントダウンがミシンのアップデートアイコンに表示されます。アップデートが完了したら4回シグナル音が聞こえます。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



システム情報画面

(A) 累積ステッチカウンター：車のオドメーターと同じ役割です。マシンが製造されて以来のステッチ数を累積しており、どの時点でメンテナンスを施すかを教えてくれるカウンターです。累積ステッチカウンターはリセットすることはできません。メンテナンスは正規販売代理店のみが行います。

(B) フットペダルが接続されていれば、画面中央右側にフットペダルのイラストレーションが表示されます。接続されていない場合は×印が表示されます。

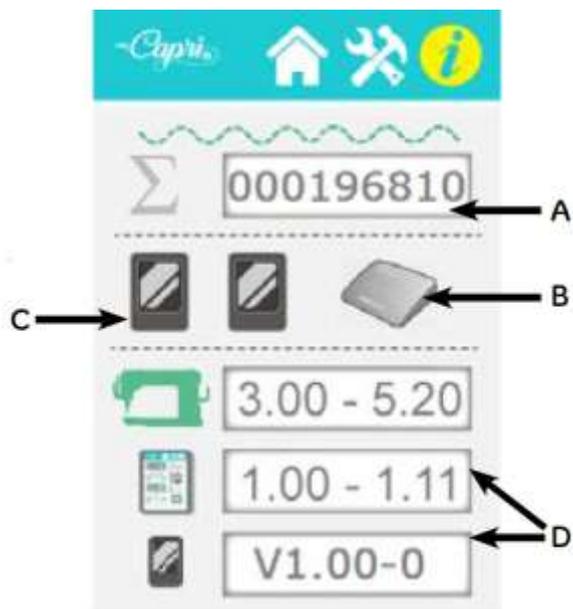
(C) Cはふたつのセンサーを指しています。センサーが機能していないときは赤い×マークが表示されます。

(D) 白いボックスに表示されている情報は

- コンピュータ基盤のバージョン番号
- 電子基板バージョン番号
- センサーバージョン番号

などです。

画面最上段のホームボタンをタッチするとメインメニューに戻り、ツールボタンをタッチすると診断メッセージに戻ります。



キルティングする

糸に関して

糸は古くなると乾燥して品質を落とします。大切なキルトの制作には最高級の糸を選ぶことをお勧めします。今日、市場に出回っているほとんどのミシン糸をお使いいただけます。

針に関して

通常のキルティングでは、針の番手は標準の 16/100 番がほとんどの糸や布地に対応しています。トップステッチや飾りステッチ用の太い糸、またデニムやキャンバス地などの硬くて目の細かい厚い布地では、18/110 番や 20/120 番の針が適しています。細いナイロン透明糸やシルク糸には 14/80 番の針が適しています。

キルティングのための準備

いかなるミシンでキルティングするにも、フリーモーションキルティング手法の基本を理解していなければなりません。HQ カブリ 18 には、家庭用ミシンのような布を送る機能はありません。従って、布地を押え金の下に置くだけでは縫うことができません。キルターがミシンのスピードを制御しながら、キルトを動かして、ミシンの速度と同調させて安定した縫い目を作り出します。

HQ カブリ 18 を上手く使いこなすには、テスト用の3層のキルトを用意して試し縫いをしてください。

ミシンの速度制限をマイスピードで中間の700spm にセットし、テスト用キルトをミシンのスピードに合わせながら動かして、布の抵抗に対してスムーズに動かせるようになるまで練習してください。布の動かし方を大きくすれば縫い目が大きくなります。お好みの縫い目にするには、手の動きに合わせてミシンのスピードを上げるか、逆に手の動かし方を緩めるなどして、縫い目が一定になるように試してください。早いミシンのスピードに対して布の動かし方が遅いと、縫い目が極端に小さくなり、糸切れを起こし、縫い目を解くのが大変難しくなります。

小さいフットペダルはオン・オフスイッチ感覚で使います。自分に合った、また縫い方に合ったスピードにミシンをセットして、ペダルは完全に踏み込んで同じスピードを維持しながら、布を一定に動かして縫うと、縫い目の揃ったステッチになります。

キルティングするときは肩や腕に力を入れすぎないようにリラックスして、布を軽くつまむように持ちます。布を強くつかみすぎると体に力が入って、スムーズなキルティングラインを描き難しくなります。オプションアクセサリーのHQ パドルやHQ スポットなどを使うと楽にキルトを動かせます。

キルトの色によって、また部屋の明るさによっては、液晶画面の輝度を調節すると目の疲れを少なくすることも可能です。

困ったときは：

ご自分で解決できる問題がたくさんあります。ご不明な点やご質問はハンディキルター正規販売代理店、キルトガーデンにご連絡ください。電話：090-2332-5770、E-メール：info@quiltgarden.jp

まずは下記の項目をチェックしてください。

1. 電源が入らないとき、電源コードが確実に接続されているますか？
2. 全てのコードが正確にミシンに接続されていますか？
3. 一度ミシンの電源を切って10秒間待ってから再び電源を入れ直してみてください。

それでも問題が解決しないときは以下の情報を参考にしてください。

目飛びがする	対策
針先が傷ついたり、曲がったりしている、または取り付けが完全でない	<ul style="list-style-type: none">• 長い時間キルティングを続けるときには1日に1度か2度、または出来るだけ針を交換しましょう。少なくとも1枚のキルトに対して1度は交換が必要です。必ずHQ社の純正針を使いましょう。• 針がまち針のような金属に当たったときは、必ず針を交換しましょう。このようなとき、針先が曲がったり欠けたりして、針が布に刺さる音が大きくなり、布地を傷めたり、目飛びや糸切れを頻発させます。• キルティングの最中に布地を引っ張ったり押し込んだりして、針が針板などに当たったときは、針を交換してください。針の先が僅かに曲がっただけで、目飛びが頻発します。
針の番手が糸に合っていない	<ul style="list-style-type: none">• キルティングに使っている針のサイズと布地のタイプとの組み合わせが適当かどうか確かめてみてください。伸縮性のあるような布地によっては、キルティングの最中に糸を針の溝に押し付けたり、締め付けたりする特性があります。このとき、糸が釜の中でループをうまく構成できずに目飛びとなることがあります。このような場合は、太い針に交換することで問題を解消できます。また、針先がボールポイントになったニット地用の針も効果があります。布と、糸と、キルト芯によって条件が複雑に変わります。いろいろ試してみてください

針の取り付け方が間違っている	<ul style="list-style-type: none"> 針を針棒に正しく取り付け直してください。針の正しい取り付け位置は、ミシンの正面（ボビンケースがあなたに向いている方向）から見たときに、針の穴があなたに向かって真正面になっている状態です。ミシンの右横側から見ると、針の溝は左方向に向いていることになり、針のくぼみがはずみ車側に向いています。 以下の3点を確認してください。（1）針がしっかりと上まで差し込まれて止められていること。（2）針の溝があなたの方向を向いていること。（3）針のくぼみがはずみ車側に向いていること。 糸によっては、上糸を引っ掛け易くするために、針の取り付け方向をごく僅かに左に回転させて取り付けることもあります。詳しくは販売代理店にお尋ねください。
糸のテンションが強すぎる	<ul style="list-style-type: none"> 下糸、上糸テンションを緩めてみてください。試し縫いして最適な上下のバランスを調節してください。（21-22 ページ参照）
糸掛けが間違っている	<ul style="list-style-type: none"> 天秤に正しく糸が通っているか確認してください。 糸掛けやチェックスプリングに正しく糸が掛かっていますか？ ダイヤルテンションディスクに上糸が正確に深く食い込んでいますか？
針が折れる	対策
針が曲がっているか、取り付け方が不良	<ul style="list-style-type: none"> 針を交換してみましょう。針を取り付ける際には針をしっかりと上に押し上げてネジを締め付けます。針棒ののぞき穴から針の先端が見えますので確認してください。針が正しく取り付けられていないと、針がボビンケースや針板に当たります。
針が針板に当たる	<ul style="list-style-type: none"> 針の取り付け方が正しいかどうか確認してください。針板や押え金が正しい位置に取り付けられていますか？ 針を交換してみてください。
縫い目が縮む	対策
上下の糸のテンションが合っていない	<ul style="list-style-type: none"> ボビンケースのテンションをまず確認してください。 それから、上糸ダイヤルテンションで上糸のテンションを調節してバランスと取ります。（21-22 ページ参照）
布地に対して針が太すぎる	<ul style="list-style-type: none"> 布地に合った針に交換してみてください。
ステッチが不揃い	対策
糸のバランスが不良	<ul style="list-style-type: none"> 下糸のテンションが正しいことを確認してから（19 ページ参照）、上糸ダイヤルテンションで上糸の調子を調節します。
ボビンケースに原因（歪、汚れ、錆びなど）	<ul style="list-style-type: none"> 下糸は高速でボビンケースのテンションバネの下を滑り出してきます。些細な汚れ、バネの下の糸くずや糸粉などが糸の動きに大きく影響します。糸道が常にクリーンなことを確認してください。

布を動かす速さとミシンの速度が上手く同調していない (レギュレーターモードには 適応しません)	<ul style="list-style-type: none"> 最適なスピード域をモニター画面で選択し、布の動きとミシンのスピードをシンクロナイズさせてください。
糸調子が不調	対策
ポビンケースのテンションバネの下に糸くずが詰まっている	<ul style="list-style-type: none"> 品質の悪い糸や、柔らかい繊維を使った糸はバネの下に糸くずを溜め込む傾向にあります。このような状態になると、下糸のテンションが緩くなり、表側に下糸が引き上げられてきます。バネのネジを緩めてバネの下側にまち針などを差し込んでこの糸くずを除去してみてください。バネの裏側に傷をつけないように細心の注意を。
ボビンの糸巻き状態が不良	<ul style="list-style-type: none"> 糸巻きが緩すぎたり、きつすぎるとステッチに大きな影響を及ぼします。糸巻きの状態がいびつだったり、きつく巻きすぎたりしないように。緩すぎて糸の巻き状態がスポンジのようにふわふわした状態も避けてください。
弾み車が回らない	対策
糸が釜の周りで絡み付いていませんか？	<ul style="list-style-type: none"> まず、電源コードをコンセントから抜きます。ポビンケースを釜から取り出します。弾み車を手で前後に回しながら釜に注油をします。(20ページ参照) 釜に絡んだ糸がないことを確認してください。
キルトの裏側で糸が絡む	対策
上糸テンションが緩すぎます	<ul style="list-style-type: none"> 上糸、下糸の糸掛けを再度やり直してみてください。上糸がダイヤルテンションのディスクの間にしっかりと入っていることを確かめてください。それでもまだ糸が絡むようならば、上糸のテンションを徐々に強めてみてください。
糸掛けが間違っている	<ul style="list-style-type: none"> 17ページを参照して、正しく糸を掛け直してください。
糸がたるむ	
ボビンの糸がポビンケースに絡まる、糸が中釜の軸に絡みつく、キルトの裏側でループが発生する	<ul style="list-style-type: none"> ボビンがポビンケースの中に正しくセットされているかどうか、上糸が正確にダイヤルテンションのディスクの間にセットされているかどうか確認します。ポビンケースにセットしたボビンの糸を引っ張ったとき引っ張る方向と反対方向に回っていますか？
モーターが回らない	対策
電源スイッチがオンになっていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチをオンにしてください。電源コードが正しくミシン側とコンセント側で接続されていることを確認してください。

電源コードが正しく接続されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードがしっかりミシンに接続されているかどうか、延長コードを使っているときは延長コードの状態も確認してください。
上糸が切れる	対策
糸の品質が悪いものや古くなったもの、また極端に捻れる糸を使っていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 糸を 30-40cm 引っ張り出し、糸の両端を放さずに両方を持ち、両手を近づけて、糸のよじれをチェックしてみてください。ひどく捻れる糸は切れやすい糸です。コットンは経年変化をし、古いものは劣化します。品質のよい糸を使ってみてください。
上糸と下糸のテンションバランスが不良	<ul style="list-style-type: none"> 上下の糸のテンションを調節してください。(20-22 ページ参照)
糸掛けが間違っているか、糸こまの置き方に問題はないか？	<ul style="list-style-type: none"> 上下の糸掛けをやり直してみてください。 糸縦棒に糸が絡まっていませんか？ 糸案内棒の輪の部分が糸こまの真上に位置していますか？ コーン型の糸こまを使っているときは、特に糸こまの傾きや置き方を確認してください
上糸ダイヤルテンションの間に異物が混入している	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤルテンションのディスクの間に糸くずなどが挟まっていないか確認してください。
ポビンケースの中でポビンの回転がスムーズでない	<ul style="list-style-type: none"> ポビンを交換してみてください。ポビン形状の僅かな歪みも糸のテンションに大きく影響し、糸切れを起こします。
針の先が痛んでいる、針が曲がっている、針の取り付け方が悪い	<ul style="list-style-type: none"> 最低でも1枚のキルトを完成する度に針を新しいものに交換してください。針が正しく、針取り付け用確認穴まで届いているかどうか確認してください。
針のサイズが糸に合っていない	<ul style="list-style-type: none"> 糸に合ったサイズとタイプの針に交換してください。
キルティング時に布を動かさずに1か所を縫いすぎているいませんか？	<ul style="list-style-type: none"> ステッチが重ならないよう、同じ場所を縫わないよう、ミシンの速度に合わせて布を動かしてください。ミシンが動き出したら1~2針縫って布を動かしてください。1か箇所に何針も縫わないように。
針と中釜のタイミングがずれている	<ul style="list-style-type: none"> 針と釜のタイミングが合っていない。正規販売代理店にご相談ください。

針板の表面に傷がついている、糸道が傷ついている	<ul style="list-style-type: none"> 針板の付近で糸がささくれるようでしたら、針が当たった跡がないか、表面がざらざらしていないか、針板の針穴の周りを注意してチェックしてください。このようなときは、正規販売代理店にご相談ください。
針のタイプが間違っている	<ul style="list-style-type: none"> ハンディキルター社の純正針を使ってください。間違った番手の針を使うといろいろな問題の原因となります。針の軸の径が細いものを取り付けると、糸が歪んで取り付けられ、縫いに影響し、危険で、目飛びや、針折れなどの原因となります。 針 タイプ134 DP5
その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> 針が釜に近づきすぎて、針が釜に擦れたり、当たる。 針板に傷がついている。 釜の剣先が傷ついている。 針取り付け部分に折れた針が残っていて、針を正常に取り付けられない。 以上の場合は正規販売代理店にご相談ください。
モニター画面が映らない	対策
接続ケーブルの取り付け不良	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチをオフにして、モニターとミシン本体をつなぐケーブルがしっかりと接続しているかどうか確認してください。

オプション・アクセサリ

(正規販売代理店、またはキルトガーデン・ウェブサイト www.quiltgarden.jp からご購入いただけます)

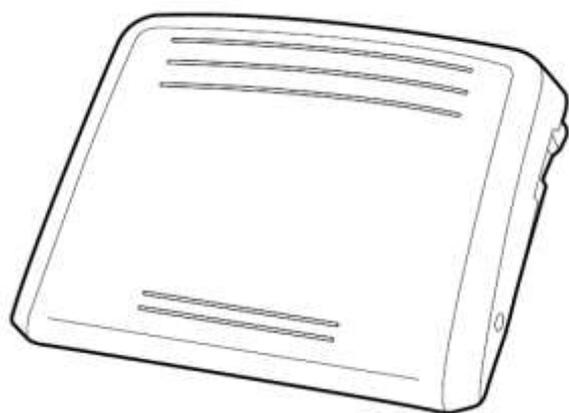


水平系こまホルダー

家庭ミシン用の糸こま、メタリック糸、モノフィラメント、フィルム状の糸など、ねじれて絡みやすい糸にお勧めします。糸がねじれて絡むと糸切れを起し易くなります。

拡張テーブル(左右別売り)

標準テーブルに取り付けて作業スペースを最大2倍に拡張できます。それぞれのテーブルのサイズは46cm×76cmです。左右別々にご購入いただけます。使わないときは折りたんでサイドにぶら下げる構造になっています。



大型フットペダル

オプションの押入金



カウチングフットセット



マイクロフット



グライドフット



シユアーフット(ルーラーフット)



エコーフットセット



スクエアフット

Appendix 1

For USA Only

Handi Quilter

445 N 700W
North Salt Lake, UT 84054
電話：+1-801-292-7988、+1-1-877-697-8458
Fax: +1-801-294-3011

キルトガーデン

Handi Quilter 日本総輸入代理店
237-0066 神奈川県横須賀市湘南鷹取 2-1-3
電話：090-2332-5770
E-Mail: info@quiltgarden.jp
www.quiltgarden.jp

修理、サービスをお受けになる際には、製品保証登録証を、先ずご購入国の現地のお買い上げ販売店、または輸入販売代理店にご提示ください。

HQ キルティングマシン製品保証書

ハンディキルター株式会社（以下 HQ 社）は、以下に述べる正規の使用条件下における HQ 製キルティングマシンの製造上の不良、及び部品の不良に対して以下の通りの無償修理の保証を提供します。

- (a) **90 日保証:** 製品が販売された日から数えて 90 日以内に発生するあらゆる製造上の不良に関しては部品、労賃の全てを無償で修理します。その後の不良に関しては部品代価のみ保証するもの、とします。
- (b) **5 年機械的の不良に対する保証:** 購入後 5 年以内に発生する機械的な不良に関しては HQ 社は部品を無償で提供します。修理代及び出張が必要な場合の往復に掛かる旅費等はユーザーの負担とします。
- (c) **5 年電気・電子部品の保証:** ご購入日より 5 年以内に発生する電気及び電子部品の不良は無償で部品を提供します。交換に要する修理代と出張が必要な場合の往復に掛かる旅費はユーザーの負担とします。但し、この保証はマシンをご使用にならず電源コンセントに繋いで置かれていて発生した場合には対象となりません。
- (d) **10 年工場保証:** HQ 社は製品不良により発生するマシン本体(キャストイング)及び加工上の不良に関しては 10 年間の無償保証を提供します。但し、この保証は別の保証規定により保証される機械不良や電気及び電子部品の不良、また保証期間満了後の機械及び電気、電子部品不良に拠って引き起こされる本体の不良等に関しては除外するものとします。

上記項目 (b)、(c)、(d) に記述された製品保証は、HQ 社の判断に基づき、工場責任、また材料上の不良により発生したものに限られ、製品が HQ 社、または正規認定修理工場、またはその他の HQ 社により認定された施設に返品されたものに限りです。その他に修理に掛かる工賃及び往復の輸送料、また出張を必要とする場合の往復旅費等は保証期間中であってもユーザーのご負担となります。

この製品保証が履行されるには、修理の発生する前に製品保証登録書(巻末ページ参照)を HQ 社または HQ 社が認定する代理店に提示する必要があります。

保証対象外: 誤った使い方をされた場合、不適切にキルティング以外の使用に使用した場合、不注意により発生した場合、運送中の損傷、HQ 社の製品標準仕様を故意に変えてお使いになった場合などは対象となりません。

保証内容が延長されることはありません。HQ 社は記述された、合意された保証、または特定目的の適合性を含む製品に関する保証以外に対しては責任を負いません。アメリカ合衆国では、いくつかの法律は黙示保証の除外を許可しません。

特定の保証対象外の制限は、全てではありませんが、おおむね以下の通りです。

- ファブリックまたは材料への損傷を含む通常の、派生的な、付随的または特別な損害、そして作り直しにかかる費用、または利益の損失、インストール、または除去に掛かる費用、または任意の製品と検査、テスト、または欠陥から派生した再設計の費用、製品の欠陥に起因する修理または交換
- HQ 社で受け取る製品の梱包に欠陥がある場合、製品に手を加えられている場合、または物理的に破損している場合
- 模造ラベル、改造ラベルやステッカー
- コネクター上の折れたピン
- ネジ山の潰れたネジ、またはナット
- 損傷または割れた、または欠品、または壊れたコネクター

- シールが無くなっている、破られている、または穴を空けられている
- 私製の布地、糸、またはアクセサリーを使ったミシンキルティング以外の使い方
- 正規の使い方以外の方法での使用者の操作エラー
- 状況により、正規販売店以外、またはHQ社のカスタマーサポートが特別に認可した以外の者、または製品保証修理担当者以外の者、が製品内部の調整を試み不当に壊し部品を交換している場合

以下の三項目の内容により引き起こされる故障、欠陥、紛失、悪化、人身傷害または損傷などは、製品保証の対象ではありません。HO社に対する責任は控除され、全てご購入者の責任になります。

- (1) 通常の使用における消耗、Tear、Exposureによる
- (2) 悪用、誤使用、過失による
- (3) HQ社によって承認されていない部品の使用による

いかなる場合においても、死亡事故のみならず個人的な傷害を含む特殊な事故、または結果的に派生する損害に対して、HQ社は製品のご購入者または第三者に対して責任を負うものではありません。

ここに記載されている以外の責任義務を負うものを指定したり、認めたりすることはありません。

(USAのみ)一部の州では偶発的または結果として発生する損害の制限を除外することはできません。従って上記の限定条件は適用されない場合があります。この保証は、購入者に特定の法的権利を与え、購入者はその他の権利を有しますが、州によって異なる場合もあります。

Exclusive 救済条項： 救済対象は不良のある製品の修理または交換に限られます。HQ社は不良商品があとどれくらいの期間使用に耐えるかを判断したうえで、修理するか交換するか、どちらの救済策または救済策の組み合わせが適切かを判断します。交換用製品は新しいもの、またはサービス可能な使用済み部品が適用されます。修理または交換した製品に対するHQ社の製品保証は、この製品を購入した時点からの保証期間か、あるいは、修理、交換した製品が出荷されてから90日の保証期間か、いずれか長い方を適用します。

不良が認められた製品に対するHQ社の賠償は、いかなる場合もその製品の購入価格を超えることはありません。この制限は、HQ社が不良製品を修理または交換できない場合も適用されます。

上記の保証に基づくサービスは、製品をご購入された正規の小売販売店、または地元の小売販売店、またはHQカスタマーサービスサポートへご自分で持ち込み、または送付し、製品保証書を提示することで受けられます。

顧客又は販売店のいずれかによって工場に修理返品する製品は、事前にRMA(製品返却許可)番号を入手しなければなりません。RMA番号は電子メール(sales@handiquilter.com)または電話で入試出来ます。カスタマーサポートダイヤル(1-877-697-8458)製品に不良があると判断された場合の返品に際しては、RMA番号発行時に製品返品に関する指示が与えられます。RMA番号を取得しないで返却された場合は、お客様の費用で返却されます。RMA認証された製品は元払いで、正規の梱包材料を使って、損害保険を掛けて出荷されます。ご購入時の製品の箱と包装材料は出来るだけ保管しておいてください。

修理に際しての送料、往復運賃、損害保険料はお客様の負担です。

製品サービスとメンテナンス： 2~4時間使用毎に針を交換しましょう。大きなキルト1~2枚が目安です。ご使用3~4時間ごとにブラシとエアスプレーを使って釜周りの糸くず、布粉、または釜周りのゴミなどを掃除し、釜に注油しましょう。上糸調子を定期的にチェックします。

正規販売店による一年に1回のサービスを推奨します。サービスはタイミングベルトの張り、エンコーダーの位置の確認と調整、ベアリング、釜軸調整とタイミング確認・調整、押え棒と針棒の調整、上糸天秤への注油、ホッピングフットレバー、ベアリングブッシングへの注油。

ハンディキルター株式会社
 カスタマーサービス
 501 North 400 West
 North Salt Lake, Utah 84054
 USA

製品保障登録証

製品の購入から 30 日以内に以下の必要事項を記入の上、キルトガーデン合同会社へ郵送して、ご登録を完了してください。

郵送先：

〒237-0066

神奈川県横須賀市湘南鷹取 2-1-3

キルトガーデン

ハンディキルター事業部

製品保証登録証

ハンディキルター社は、ミシン本体（キャストイング）と本体カバーに関する製造者責任を販売日時より 10 年間、機械部品は 5 年間、そして電機、電子部品は 5 年間保証します。詳細は正規販売代理店にご照会ください。

HQ キルティングミシン モデル(どれかひとつに☑マークを付けてください)：

HQ スウィートシックスティーン、HQ シンプリーシックスティーン、HQ カプリ

HQ アヴァンテ、HQ アマラ、HQ フュージョン、HQ フォルテ、HQ インフィニティ

購入者氏名： _____

会社名/団体名： _____

郵便番号： _____

住所： _____

自宅電話： _____

携帯電話： _____

ファックス： _____

Eメール： _____

製品機番： _____ Order # (5桁)： _____

購入日： _____

製品受領日： _____

購入代理店名/都市名： _____

使用の目的： 家庭・個人的な使用 職業用 友人との共同所有

主に職業用

その他 _____

キルティング歴 初心者 中級者 熟練者

ミシンの熟練度 初心者 中級者 熟練者

署名

白紙ページ

HQ カブリ、HQ インサイトテーブルのトレーニングチェックリストと認定証

貴方はHQ カブリご購入に際し1回の導入トレーニングを無償で受講することが出来ます。またご購入から60日以内のいかなる不具合に対する調整も無償で受けることが出来、製品保証されたいかなる修理も無償で受けられます。このフリーサービスを受けるにはこの認定証をご提示ください。

テーブルの組立

- テーブルの組み立て方
- テーブルの高さの調節方法

ミシンのメンテナンス

- 中釜の注油方法：どこに、どのようにして、いつ？
- 釜の掃除の仕方（エアスプレー使用可：ナイロンブラシ使用）

ミシンのセッティング

- 主な部品の確認と取り付け位置
- テーブルへの設置方法
- 配線の確認
- 電源コードの接続と安全の確認
- アースの重要性（日本では不要）
- テーブルの水平度と高さの調節
- 下糸巻き装置の説明（糸のテンションと巻量の調節方法）

重要事項：ご署名される前にご確認ください。

以下にご署名されると当製品の初期説明を受講されたことを承諾することになります。

ハンディキルター社、または代理店による追加の講習には費用が発生することがあります。

ユーザー名： _____

ご署名： _____

ミシンの使い方

- ミシンのオン/オフスイッチの説明
- 針の交換方法
- 押え金の交換方法
- 上糸の掛け方
- ボビンケースのテンションの調節方法
- 上糸テンションの調節方法
- 下糸の引き上げ方
- メニューの説明と使い方
- ソーイングライトの調節方法
- ステッチレギュレーターの使い方
- マニュアルモードでのスピードの設定方法：プリセットスピードの登録方法
- ステッチレギュレーターモードで縫い目長さの設定方法
- クルーズ（巡航）モードの使い方
- プリシジョン（正確）モードの使い方
- フットペダルの使い方
- HQ インサイトセンサーの説明
- タッチスクリーンの使い方の説明
- タッチスクリーンの機能説明
- プリセットとマイスピードのセット方法
- 針上下ボタンと留め縫い
- 留め縫いの方法

講習受講日： _____

指導者名： _____

納品業者署名： _____

会社名： キルトガーデン

会社住所： 237-0066 神奈川県横須賀市
湘南鷹取 2-1-3

ミシンの機械番号 _____

HQ 業者へ：署名の上この受講票をHQ社にファックスで送信し登録を完了してください。

Handi Quilter Inc.
Training Check List
501 North 400 West
North Salt Lake, UT 84054

白紙ページ



Handi Quilter, Inc.
501 N 400 W
North Salt Lake, UT 84054

1-877-MY-QUILT (697-8458) • www.HandiQuilter.com

HQ Capri[®] is part of the family of innovative quilting products from Handi Quilter[®]



PRINTED 11/2019

© 2019 Handi Quilter, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S.A.